

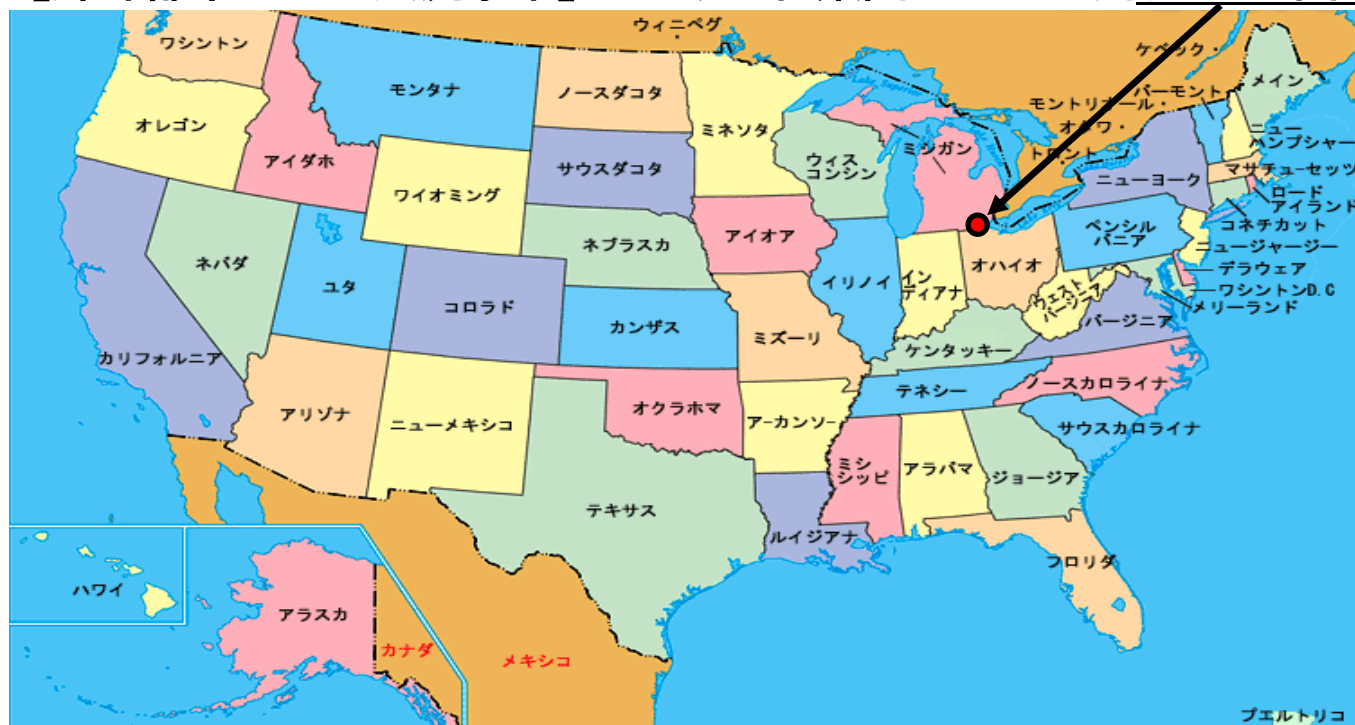
平成 29 年度 燕市 姉妹都市子ども交流事業・海外派遣事業

報 告 書

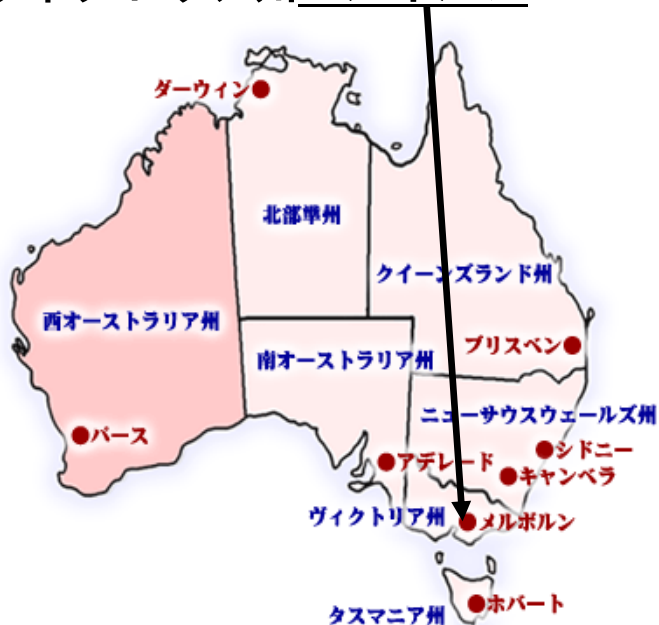
Our Precious Memories We Will Never Forget



【姉妹都市子ども交流事業】アメリカ合衆国ミシガン州ダンディ村



【親善大使海外派遣事業】 オーストラリア連邦 ヴィクトリア州メルボルン



シンガポール共和国 シンガポール市



表紙写真説明

- 上段左：ダンディ村にあるアウトドア専門店「カベラス」の前で
- 上段右：ダンディ村の皆さんとお別れパーティで集合
- 下段左：メルボルン近郊のまちバララットを見下ろす丘
- 下段右：シンガポール、夜のマーライオン公園

平成 29 年度燕市姉妹都市子ども交流事業・海外派遣事業報告書 目次

はじめに	燕市長 鈴木 力	3
------	--------------------	---

ごあいさつ	燕市教育長 仲野 孝	4
-------	----------------------	---

【姉妹都市子ども交流事業】

ダンディ使節団滞在日程	6
-----------------------	---

ダンディ使節団団員感想	7
-----------------------	---

ダンディ使節団団員アンケート	15
--------------------------	----

「広報つばめ」平成 29 年 10 月 1 日号掲載記事 . . .	17
------------------------------------	----

ダンディ使節団引率者報告	18
------------------------	----

【Jack & Betty プロジェクト海外派遣事業】

海外派遣事業日程	20
--------------------	----

親善大使活動報告	22
--------------------	----

親善大使「目標と成果」	46
-----------------------	----

広報つばめ平成 29 年 10 月 15 日号掲載記事	58
-------------------------------------	----

海外派遣事業研修参加者、引率者報告	60
-----------------------------	----

はじめに

燕市長 鈴木 力



今年度、燕市の2つの国際交流事業を実施しました。

姉妹都市子ども交流事業として、本市から4人の中学生と引率者1人が、アメリカ合衆国ミシガン州ダンディ村を訪れました。ダンディ村との間で、1年交代で派遣・受入を行っている本事業ですが、今回は派遣がちょうど10回目にあたります。「初めての海外」という派遣生も多いなか、今回は私も派遣生たちとともに初めてダンディ村を訪問することとなりました。

派遣生と同行した3日間においては、村役場や博物館など「学ぶ」ことがメインの施設等を訪問しました。その後ホストファミリーの皆さんと訪れた先では、カヤック体験やキャンプなど、楽しみながら様々なアクティビティを経験し、アメリカの文化にすることができたようです。

現地では、燕市の歴史や文化、産業や自然などについてしっかりと伝えられたことと思います。また、アメリカ合衆国、ミシガン州、ダンディ村、そしてそれぞれの家族について学ぶことで、文化にたっぷりと触れる機会となったことでしょう。また、ホームステイをお引き受けいただいた家族との絆は特に深いものとなったことでしょう。

この事業の出発式には、市のもう一つの国際交流事業である「Jack & Betty プロジェクト」の Jack & Betty 教室の児童生徒も参加し、第2回特別講演会として、4人の中学生の英語での発表を聞きました。また、帰国報告会における発表に、ダンディ村クイズなどいくつかの発表を加えて、Jack & Betty 教室の5、6年生に向けて発表してくれました。事業の交流により、お互いに刺激し合える場になったと思っています。

彼らにとっては、親元を離れての外国での生活であり、寂しく感じたり、違いに戸惑うことがあったりしたことと思います。しかし、帰国の際に見せてくれた笑顔は、充実した日々を過ごし、たくさんの思い出を作ってくれたのだと確信することができました。御協力をいただいた、滞在期間中、様々な面でお世話をいただいた関係者の皆様に、心から御礼申し上げます。

ごあいさつ

燕市教育長 仲野 孝



小学校、中学校における学習指導要領が改定され、小学校では平成 32 年度の完全実施に向けて、平成 30 年度から移行期に入り、道徳においては「特別の教科」として、平成 30 年度から完全実施となります。また大学入試など、教育界では特に外国語教育に関する多くの改革が実施されてまいります。燕市教育委員会といたしましては、国際交流に関する事業を継続する中、限られた人数ではございますが、国際感覚豊かな人材育成に取り組んでおります。

さて、姉妹都市子ども交流事業では、今年度、中学生 4 人、引率者 1 人がアメリカミシガン州ダンディ村を訪問しました。また、Jack & Betty プロジェクト、親善大使海外派遣事業では、12 人をオーストラリアとシンガポールに派遣いたしました。

今年度は、使節団の出発に合わせて、鈴木力市長と一緒に渡米し、ダンディ村を訪問しました。また今年度は、出発式などでの発表を Jack & Betty 教室参加の児童生徒が聴く場面が設定され、4 人の中学生にとっても、緊張感のある良い場面になったと考えております。報告会からも、充実したダンディ村での生活を伺うことができました。現地で彼らを快く受け入れてくださった御家族や、様々な面からこの事業に御協力いただいた皆様には、心から感謝申し上げます。今回の訪問も、燕市姉妹都市交流の一層の発展につながり、使節団の 4 人は、将来、燕市の国際交流に寄与してくれることと期待しております。

親善大使海外派遣事業は、今年度も冬の終わりのオーストラリアでのホームステイでした。現地の生徒たちと一緒に学校生活を体験することで、授業や昼食、学生や先生など、日本とは異なる学校生活について体感できたことと思います。また、シンガポールでの新潟県人会との交流においては、シンガポールと新潟市との交流事業にライブ出演するなど、特別な交流会がもたれたことも耳にしました。このように、帰国報告会での発表から、ホストファミリーや現地の友人、そして出会った方々との交流をとおして、英語の力だけでなく、たくさんのことを学び、派遣事業の目的である燕市の P R 活動に真剣に取り組み、人として大きく成長できたことが感じられました。

親善大使には、この経験を活かして、これからさらに自分自身の目標を高くもち、学校だけでなく様々な場面で、個性を活かして活躍してくれることを期待しております。

終わりに、この国際交流事業に御協力くださった事業所の皆様、保護者の皆様、そして地域の皆様に心から感謝申し上げます。今後も、これらの事業の充実と発展に取り組み、燕市の子どもたちの人材育成に取り組んでまいりますので、皆様の御理解と御支援をいただきますようお願い申し上げます。

【燕市姉妹都市子ども交流事業】

ダンディ使節団滞在日程

月 日	日 程	
7月31日(月)	9:00 燕三条駅集合	(ホームステイ)
	9:32 燕三条駅出発	
	11:28 東京駅到着	
	12:03 東京駅出発	
	12:58 成田空港到着	
	15:55 成田空港出発	
	(日付変更線通過)	
	14:38 デトロイト空港到着	
	18:00 歓迎会(ダンディ高校)	
	19:30 各ホストファミリー宅へ	
8月1日(火)	8:45 ダンディ村役場訪問	(ホームステイ)
	10:00 ダンディ村歴史博物館見学	
	11:00 カベラス(アウトドア専門店)見学、昼食	
	13:00 ダンディ高校視察、村内散策	
	16:00 モンロー・カウンティ・フェア訪問	
	18:00 デモリション・ダービー観戦	
	20:00 フェアフード、マクドナルドで夕食	
8月2日(水)	10:00 フォード社工場見学	(ホームステイ)
	12:00 ヘンリー・フォード園内でピクニックランチ	
	13:00 グリーンフィールド・ヴィレッジ	
	17:00 ダンディ村内で記念撮影	
8月3日(木)	9:00 ヒューロン川にてカヤック体験	(ホームステイ)
	12:30 ダンディ村役場にてBBQランチ	
	13:30 日本食パーティの準備	
	18:00 日本食パーティ	
	19:00 派遣生オリジナルつばめっ子かるたのプレゼンテーション	
	19:30 折り紙、かるた遊びで交流	
8月4日(金)	終日ホストファミリーと過ごす	(ホームステイ)
8月5日(土)	終日ホストファミリーと過ごす	(ホームステイ)
8月6日(日)	11:30 マスキーガン市シルバーレイクにて砂丘ライド体験	(ホームステイ)
	13:00 サンド・キャッスル・レストランにて昼食	
	15:00 ミシガン湖で水遊び	
	18:00 KOAキャンプグラウンドにてキャンプ(水遊び、トランポリン)	
	20:00 夕食、BBQ	
8月7日(月)	7:00 キャンプ場周辺ランニング、朝食	(ホームステイ)
	11:00 ミシガン・アドベンチャー遊園地(乗り物、プール)	
	18:00 各家庭でダンディ村へ	
8月8日(火)	10:00 オハイオ州トレド市内でショッピング	(ホームステイ)
	12:30 フランクリン・パーク・モールのフードコートにて昼食	
	14:30 ダンディ村内でショッピング	
	18:00 ホストファミリーとお別れパーティ(レイトンさん宅)	
8月9日(水)	7:15 集合、ボブ・エヴァンスにて朝食	(機内泊)
	9:00 ダンディ村出発	
	10:00 デトロイト空港着	
	12:36 デトロイト空港発	
	(日付変更線通過)	
8月10日(木)	14:15 成田空港到着	
	16:19 成田空港出発	
	17:17 東京駅到着	
	18:12 東京駅出発	
	20:00 燕三条駅到着	

ダンディ使節団団員感想

新しい出会い

吉田中学校 3年 加藤 優菜

今まで行ったことがない、はじめての海外。たくさんの出会い。それから別れを体験しました。それがどんなに素敵なことで、どんなに素晴らしいことか、私はこの研修で改めて感じました。大切なのは、言葉ではなく、その人の本当の美しさを知ることなのです。英語と日本語。確かに言語の違いがあっても、同じ地球に住み、同じ人間であることには、変わりないのです。私のホストファミリーは、本当に素敵な家族でした。ラディ、アント、バニー。3人とも、優しく、おもしろくて、本当に温かい家族でした。そしてバニーのお友達と一緒に日本食屋さんでご飯を食べたり、おばあちゃんと一緒に映画館に行ったり、新しい出会いをたくさんし、みんなでお話をして、その一分一秒が大切でした。この研修で私が学んだことは、新しい出会いを大切にすることです。新しい出会いはいい発見、いい影響をあたえてくれます。だからこそもっと出会いを大切にすべきです。どんな人にでも優しく接して、たくさん話をする事で、いろいろな発見ができるのです。だから、出会うたくさんの人たち。出会ったたくさんの人たちをこれからも大切にしていきたいです。



写真上： みんなでグリーンフォードヴィレッジにて

写真左： 朝のランニング♪今日も楽しもう！

一生の思い出

分水中学校 2年 平 原 桜 子

私は燕市姉妹都市交流事業の派遣団員としてアメリカ、ミシガン州のダンディ村に行ってきました。



私のホストファミリーは6人家族で私と同じ年頃の女の子と少し年下の男の子がいました。その2人はいつも私が楽しんでいるか気にかけて、たくさん話しかけてくれました。出発前は会話がすぐに途切れてしまうのではないかと不安でしたが、ホストファミリーはアメリカのゲームを教えてくれたりして、楽しく会話をすることができました。

私は今回の派遣中、モンロー・カウンティ・フェアと湖に何度も行きました。モンロー・カウンティ・フェアは移動遊園地や家畜祭、様々なイベントを行っている日本の祭りのようなものでした。私のホストファミリーが家畜祭に馬とにわとりを出していたため、夜はほとんどフェアで過ごしました。夕食もフェアの屋台でステーキやポテトを買って食べました。日本にはないフェアフードも食べることができました。湖は、別のホストファミリーの家の前にある湖、その祖父母の家の前にある湖、キャンプ場にある湖、シルバーレイク、五大湖の一つであるミシガン湖の5つの湖に行きました。私はその中の3つに入りました。特にミシガン湖ではホストファミリーのイーサンと水をかけて遊んだり、砂で小さい森を作ったりして、楽しく過ごすことができました。

日本食パーティーでは、おにぎり、焼き鳥、スイーツたこ焼き、麦茶を作りました。作るのは大変でしたが、食べた後に「おいしかった!」を言ってもらえてうれしかったです。その後に、折り紙やカルタをして交流しました。イーサンは折り紙で作った手裏剣を次の日もずっと持ち歩いていて、とても気に入った様子でした。日本の文化を通してホストファミリー以外の現地の方々とも交流することができました。

この派遣を通して、文化や習慣が違ってもお互いに受け入れ、尊重していくことが大切だと感じました。ダンディ村での思い出は、私の一生の宝物です。今回の派遣事業に

参加できたことを心からありがたく思っています。この派遣事業に関わってくださった全ての方々、本当にありがとうございました。

写真上：ホストファミリーのジャロッドに箸の持ち方を
教えているところ。

写真左：お別れパーティーでみんなと。



「目標と成果」

行き先	アメリカ合衆国・ダンディ村	氏名	平原 桜子
-----	---------------	----	-------

1 国際交流事業（海外派遣）に参加するにあたって、目標を決めましょう。

目標① 自分の使える英語をたくさん使って現地の人と積極的にコミュニケーションをとる。

目標② 現地でのさまざまな体験を通して、日本と違う文化に触れる。また、日本や燕市の文化を現地の人に伝える。

2 目標は達成できましたか？

目標①について 単語を覚えて、ホストファミリーが使った言葉を使って自分から話しかけることができました。

目標②について 暮らしの中での日本との違いをたくさん見つけることができました。日本食の提供や折り紙、カルタなどで日本の文化を伝えることができました。

3 最も思い出に残ったことを書いてください。

モンロ・カントリー・フェアで見たデモリション・ダービーです。車と車がぶつかり合うと聞いて最初は怖かったのですが、始まるたびに興奮したのを感じています。フェアでは馬、豚、やぎ、羊、にわとり、うさぎなどがたくさんいて驚きました。フライオリオやエレファントイヤーなどのフェアフードもとてもおいしかったです。日本の祭りのような感じで楽しかったです。

4 これから頑張りたいことや挑戦してみたいことを書いてください。

英語を勉強して、また海外に行きたいです。違う派遣事業にも積極的に参加したいです。

5 海外派遣を希望する人へのアドバイスを書いてください。

自分から積極的に話しかけることが大切だと思います。絶対に仲良くなれるので、たくさん話しかけてみてください!! 単語を覚えておくと話が弾むと思います。

忘れられない経験

燕中等教育学校 3年 長谷川 蒼

私は、今回初めて海外へ行きました。最初は、不安しかなかったけれど、研修やダンディ村の方たちとの交流、派遣団員との交流を通して、徐々にになれることで、協力しあったり、プレゼンや交流会を楽しむことができました。

飛行機に長くゆられて、ようやくデトロイト空港についた時には疲れ切ってしまいました。しかし、ダンディ村について、ウェルカムパーティーで、ホストファミリーと会い、疲れも飛んで行きました。ホストファミリーと会って、話をしていくうちに打ち解けあって、最初の頃に抱いていた不安は、徐々に消えて行きました。しかし、自分の英語が通じるのか、相手の言っていることを聞きとることができるのかと、こういったことの不安はまだ残っていました。私のホストファミリーで、同じ年のブレイダンくんや、その妹のアシュリンちゃん、弟のプリストンくんたちが、ゆっくり、分かりやすく、易しい英語で話しかけてきてくれて、とても安心しました。また、片言の英語でも、積極的に話しかけたら、ちゃんと理解してもらえて、その時すごくうれしかったです。ホストファミリーの家には、犬が1匹、ネコが2匹いて、ホームステイが始まって4日たったころに、夜中にベッドの上へ上がってきて、びっくりしましたが、ベッドの上で寝ていて、動物とも打ち解けられたのかなと思うことができました。

私たちは、8月7日にミシガン・アドベンチャーという大きな遊園地に行ってきました。私は、ジェットコースターに乗ったことがなくて、他の人たちが乗ろーと声をかけてきて、列にみんなで並びました。私は、並んでいる間ずっと不安で、緊張していました。そんな時、ブレイダンくんが何回もはげましてくれて、二人で隣に座って、なんとか乗り終えることができました。乗った後とても疲れましたが、楽しく乗ることができて良かったです。でも、ジェットコースターは少し苦手になりました。

私が一番楽しかったのは、ホストファミリーと過ごした休日です。全部で二日あって、1日目は妹さんのアシュリンちゃんの誕生日でした。誕生日には、大きなケーキ、アイスクリーム、ピザなどを食べてお祝いしました。アメリカのケーキは日本のケーキとちがって、とても甘かったです。アイスクリームは、とてもカラフルでした。2日目は、湖の近くにある別荘に行きました。そこでは、モーターボートに乗って湖の真ん中まで行って、泳いだり、クラッカーを食べたり、水上バイクに乗って、ふり落とされそうになったりと、とても貴重な体験でした。

私にとって、この10日間は夢のようで、とてもあっというまでした。この経験は一生に一度できるかできないかというほど、とても貴重でした。この貴重な経験をさせてくれたホストファミリーに感謝を伝えると共に、また会いたかったです。

写真上：ホストファミリーと

写真左：みんなでチェッカーズ（ゲーム）をしている



「目標と成果」

行き先	アメリカ合衆国・ダンディ村	氏名	長谷川 蒼
-----	---------------	----	-------

1 国際交流事業（海外派遣）に参加するにあたって、目標を決めましょう。

目標① ホストファミリーのみなさんと会話を楽しめるように、身ぶり手ぶりで一生懸命意志を伝えたいです。

目標② 様々なことに興味を持ち、積極的に何事にもチャレンジする。

2 目標は達成できましたか？

目標①について ホストファミリーのみなさんと話す時に、自分の意志を伝えようとする努力をすることができましたが、会話はあまり長かったり、はずんだりはできませんでした。

目標②について 博物館に行った際に、見たことのないものだらけで、混乱しつつも、ホストファミリーの人に詳しく、積極的に質問することができました。

3 最も思い出に残ったことを書いてください。

ホストファミリーと過ごした日です。たまたまホストファミリーと過ごした2日のうちの1日が、一番小さい妹さんの誕生日で、家族全員で祝ってケーキやアイスクリームを食べたことです。あと、日本食を提供した時に、「とてもおいしい」や、「これは何ですか」と聞いてくれたことです。

4 これから頑張りたいことや挑戦してみたいことを書いてください。

今回の派遣を通して、悔しかったことや楽しかったことを振り返りながら、英語力をもっと上げられるようになりたいです。

5 海外派遣を希望する人へのアドバイスを書いてください。

何か質問をされたり、してもらった時などの、「Yes」「No」「Thank you」「You're welcome」などがとても大切だし、単語だけでも理解してくれるから、身の周りの物を英語にめたりすることから始めることが大切だと思います。

私の大切な思い出

燕中学校 3年 阿部 楓果



私は、海外に行く事が初めてで、長いフライトでもとても緊張していました。ですが、ダンディー高校に到着し、ホストファミリーのみなさんや、ダンディー村の方々が笑顔で迎えてくださり私の緊張も徐々にほぐれていきました。みなさんとても笑顔が素敵です。日本からのお土産を渡すと、かっこいい！かわいい！と言ってくれました。すべての建物や食べ物が大きかったです。カベラスは、アメリカで3番目に大きいそうなのですが、本物の動物を使った剥製やちょっとした水族館がありとても驚きました。そしてフェアに行き、デモリション・ダービーを観戦できた事にとても感激しました。元々とても好きだったのですが、まさか本物が見れると思っていませんでした。次の日にフォード社見学へ行きました。フォード車は、日本でも見る事があります。だからこそ本社に行けて、とても興奮しました。次の日は、みんなでカヤックをしました。結構な距離がありました。自然の中にと、気持ちがとても落ち着きました。この日に私達は、日本食を提供しました。やきとり、おにぎり、チョコレートたこやき、麦茶、べっこうあ

め。私は、おにぎりの味を説明していたのですが、これは、すきやき、これは、さけとわかめ、これは、わかめです」と説明すると、すきやきが一番人気でした。わかめは、だんかつで人気が無かったです。アメリカでは、海藻を食べる習慣があまり無いようです。これも日本と違うところですね！その後2日間は、ホストファミリーと過ごしました。1日目は、ラディさん一家とショッピングと映画鑑賞。お店もかわいいものばかりでした。「こんなに安いの！」と思う事もたくさんありました。2日目は、マリジョーさん家族とお母さんの姉妹のお宅へ行きました。みなさんとてもフレンドリーでとても楽しかったです。とても敷地が広くて庭に池が！ゴーカートもありました。池で魚釣りをしたり、ベリーを摘んだりといろんな体験が出来ました。次の日は、砂丘ライド体験！ジェットコースター並にスピードが出ていてビックリでした。砂が白く、綺麗でした。その日は、キャンプ。疲れを忘れてたくさん思い出話をしました。ミシガン・アドベンチャーはとにかく楽しかったです。きらいだったジェットコースターも14回も乗りました。次の日には、お別れパーティー。長いようでとても短いホームステイでした。パーティーではケーキ、お肉、おかし、なにもかもそろっていて、本当にありがたかったです。最後にもらったプレゼントは一生の宝物です。みんなと離れたくありませんでした。でもたくさんの思い出が出来てとても幸せです。カルタや折り紙。日本の文化に楽しくふれあえてもらえたのでとても安心しました。私は、元々英語が苦手でした。それでも挑戦することが大切です。楽しい事、好きな事が見つかります。ダンディー村のみなさん、たくさんの思い出をありがとうございます。



写真上：初めて会って緊張したけれどとってもフレンドリー！

写真左：会えてよかった！本当にありがとう！

「目標と成果」

行き先	アメリカ合衆国・ダンディ村	氏名	阿部 楓果
-----	---------------	----	-------

1 国際交流事業（海外派遣）に参加するにあたって、目標を決めましょう。

目標① もし、言葉だけでは、伝わりなくても、ジェスチャーや体を使って相手に自分の言いたい事を最後までしっかりと伝える。コミュニケーションを大切にやる。

目標② ホストファミリーのおなさんは、もちろんダンディ村のおんなに燕の有名な所、物を伝えたいです。単語ばかりでもいいから燕の事をしっかりと紹介する。

2 目標は達成できましたか？

目標①について とてもむずかしかったけれどジェスチャーを使って伝える事が何度も出来た。

目標②について おんなで作ったカルタなどで紹介できたと思う。楽しく紹介出来て私もうれしかったです。

3 最も思い出に残ったことを書いてください。

フェアに行った事です。馬や豚、羊など動物たちがたくさんいて驚きました。日本とはまた違うポップなフェアでした。私が一番うれしかったのは、DEMOLITION CAR DARBYを見た事です。観客も盛り上がり、私にとってとても幸せな時間でした。全てが良き思い出です。

4 これから頑張りたいことや挑戦してみたいことを書いてください。

自分から質問する事がまだ、出来ていなかったです。英語スキルをもっと上げてまたアメリカに行きたいです。

5 海外派遣を希望する人へのアドバイスを書いてください。

日本とはまったく違う環境に驚く事も多いと思います。それを否定するのではなく、新しい考えとして受け入れる事が大切です。

燕市国際交流事業参加者アンケート（まとめ）

派遣先	学年	性別
アメリカ合衆国 ダンディ	中学2年1人、3年3人	男1、女3

Q1 海外派遣はどうでしたか？

①とてもよかった 4人 ②よかった ③ふつう ④よくなかった

●その理由は？
（具体的に）

- ・ホストファミリーがとても優しく接してくれて話しかけやすかった。
- ・アメリカの遊びを教えてください、日本の遊びを教えてくださいして楽しく交流できた。
- ・最高だった。どんなときでも、すごく楽しかった。
- ・ホストファミリーがいい人ばかりだった。
- ・楽しいことしかなかった。
- ・何もかも初めてだったが、温かく迎え入れてくれて幸せだった。

Q2 日程はどうでしたか？

①ややきつかった ②きつかった ③やや楽だった 1人 ④楽だった 3人

●体調や精神面で特につらいと感じたときはありましたか？あれば具体的に書いてください。（飛行機、英語、食事、日程など）

〔 ・行き飛行機で、緊張して酔ってしまった 〕

Q3 期間はどうか？

①やや長かった ②ちょうどいい 1人 ③やや短かった ④短かった 2人

（無回答 1人）

Q4 海外派遣の中で、良かった場所や活動は何ですか？「特に良かった」こと1つに◎、「良かった」こと4つ以内に○を記入してください。また、「良くなかった」ことがあれば、3つ以内のものに△を記入してください。

歓迎会 ○…1人

ダンディ村役場訪問

ダンディ村歴史博物館

カベラス（アウトドア専門店）

ダンディの学校訪問

ミシガン州見学 ◎…2人

フォード社工場見学

グリーンフィールド・ヴィレッジ博物館

ヒューロン川カヤック体験

村役場でのランチ

日本食のサービス ○…1人

カリフォルニア州見学 ○…1人

折り紙の紹介

シルバーレイク砂丘ライド ○…1人

ミシガン湖遊泳 ○…1人

キャンプ ○…1人

ミシガンアドベンチャー遊園地 ○…3人

ショッピング ○…1人

お別れパーティ ○…2人

ホストファミリーと過ごした週末 ◎…1人

その他

〔 ・すべてが◎ 〕

Q5 ホームステイで良かったことを書いてください。また、困ったことがあれば、具体的に書いてください。また、困ったことを解決するために自分がしたり、事前に準備したりしておくべきことを具体的に書いてください。

①良かったことは？

- ・すべて
- ・ダンディ村のみなさんが心優しく、たくさんの所につれていってもらえて幸せだった。
- ・ホストファミリーと英語でコミュニケーションが取れたこと。
- ・ホストファミリーがいい人ばかりだったこと。

②困ったことは？

- ・食事の量が多かった。断り方が分からず、全部食べた。
- ・洗濯物をどうすればいいのかわからなかった。

③自分のしたことや
事前の準備は？

- ・Youtubeで英会話を勉強した。
- ・英会話を少し練習した。
- ・電子辞書を持って行った。
- ・お土産をたくさん用意した。

Q6 海外派遣で、とまどったことや不安に思ったこと、疑問に感じたことなどがあれば、具体的に書いてください。

- ・特になし

Q8 海外派遣について意見や感想、要望などがあれば自由に書いてください。

- ・夜遅くまで外にいたので、日本と違うものを多く知れた。
- ・どこを訪れても、楽しく過ごせた。
- ・もう一度ホストファミリーと交流したいと思った。
- ・ホストファミリーとまた会う機会がほしい。

Q9 ホストファミリーのお土産として、何をどれくらい持っていきましたか。具体的に書いてください。

- ・日本のもの ・折り紙 ・和風のまげゴム ・扇子 ・メモ ・日用品 ・ラップ
- ・だるま落とし ・わさび ・ゆずこしょう ・紙風船 ・英語の折り紙の本
- ・寿司ストラップ ・お菓子 ・日本柄文房具 ・絵はがきセット

ダンディ村 文化交流体験記

燕市から約10,000km離れた姉妹都市アメリカ合衆国ミシガン州ダンディ村へ、7月31日から8月10日まで、中学生4人を派遣しました。派遣生はホームステイをしながら現地の生活に触れ、文化交流をしながらたくさんの貴重な体験をしました。ダンディ村での滞在中の様子と派遣生たちの声を紹介します。



かとう ゆうな
加藤 優菜さん(吉田中学校3年)

アメリカでの10日間は本当に魔法のような時間でした。会える人、見る物すべてが、輝いていたし、感動してしまうような経験ばかりで、全てが一生の宝物です！



◀ここは西洋時代!! おしゃれに帽子で決めちゃおう!!



◀グリーンフィールド・ヴィレッジでみんなと一緒に!!



◀ホストファミリーと一緒に撮った、お気に入りの一枚



ひらはら さくら
平原 桜子さん(分水中学校2年)

ミシガン州にはたくさん湖がありました。ボートに乗ったり、魚釣りをしたりして楽しみました。五大湖の一つであるミシガン湖で泳ぐ貴重な体験をすることができました。



◀「もー!! やめてよ!! (笑) [ミシガン湖で]」



◀ブラックバス釣れました!!



◀移動中に見えたシルバーレイクと砂丘



はせがわ あい
長谷川 蒼さん(燕中等教育学校3年)

私の今回の海外派遣での思い出は3つあります。1つ目は、フォード社工場、2つ目は、グリーンフィールド・ヴィレッジ、3つ目がシルバーレイクです。どれも貴重なものでした。



◀シルバーレイクがある砂丘



◀グリーンフィールド・ヴィレッジのライト兄弟の家



◀フォード社工場



あべ ふか
阿部 楓果さん(燕中学校3年)

数えきれないほどの思い出ができました。最初は、全くしゃべることができなかったけれど、徐々に受け答えができるようになりました。全てがとても良い思い出です。



◀「またまた英語に慣れていたなかったけれど、みんな楽しそうでした。私もとても楽しかった。」



◀「グレイブパーティーの写真。最終日の寂しさを吹き飛ばすとても楽しいパーティーでした!」



◀「みんなでフェアに行きました。たー Demolition Derbyの車に乗れてとてもうれしかったです!」

【ダンディ派遣団 引率者報告】

燕市教育委員会 学校教育課 学事保健係主事 山田佳織

期待と緊張が入り混じるなか、約 11 時間 40 分という長時間のフライトを経て、ダンディ村に到着しました。

初日からホストファミリーの皆さんに温かく迎えていただきました。最初は言葉や気持ちが伝わるかどうか不安だったと思いますが、同世代の子ども同士、国も言葉も超えてあっという間に打ち解けることができました。一人ひとりの笑顔がきらきら輝いていたのが印象に残っています。

現地ではホストステューデントのみなさんと一緒に、施設見学やアクティビティ等を通して、楽しくアメリカ文化を体験し、学ぶことができました。また現地では、今回の派遣では、派遣生自らが「燕市のいいところ」を見つけ、写真を集め、それを英語で紹介するオリジナルかるたを作成し、みなさんに遊んでいただきました。自分たちの言葉で自分の住む燕市のいいところを伝えることが出来るよい機会になったと思います。

日々のホストファミリーの皆さんの力強いサポートのおかげもあり、大きなけがや病気もなく、沢山のかけがえのない思い出が出来ました。

派遣生の皆さんは、今回の派遣において達成できた目標、悔しい思いをしたこと、それぞれあることと思います。また、今回の派遣を通して世界は広いということを、身をもって知ることができたのではないのでしょうか。

「また海外に行きたい」「ホストファミリーに会いたい」という思いや、将来の目標など、派遣をとおして見つけることのできた自分のおみやげを大切にいただき、燕市と世界をつなぐ架け橋となって羽ばたいてくれるよう、期待しています。

最後に、半年間にわたり派遣生の体験を温かくサポートしてくださった関係者の皆様に心から感謝いたします。本当にありがとうございました。



【Jack&Betty プロジェクト海外派遣事業】

海外派遣事業日程

月 日	日 程	
8月15日(火)	8:05 燕三条駅出発 10:04 東京駅到着 10:33 東京駅出発 11:27 成田空港到着 14:45 羽田空港出発 21:00 シンガポール空港(経由地) 到着 23:55 シンガポール空港(経由地) 出発	 (機内泊)
8月16日(水)	9:20 メルボルン到着、市内見学(フェデレーション・スクウェア、ホージャールレーンなど) 14:30 バララット・ワイルド・パーク(コアラ見学等) 17:00 現地校: St Alipius Parish School 到着 放課後: ホストファミリーと対面	(ホームステイ)
8月17日(木)	7:50~現地校へ登校、健康観察、日程確認 午前: 午前ウェルカムセレモニー、英語授業、リセス(午前のお茶の時間)、昼食 午後: 現地校生徒との交流、現地校生徒と授業参加 15:30 放課、ホストファミリーと帰宅	(ホームステイ)
8月18日(金)	7:50~現地校へ登校、健康観察、日程確認 午前: 英語授業、アボリジニ文化について学習 ブーメラン作り体験、全校礼拝見学(教会) 午後: ブーメラン作り体験、現地校生徒と授業参加 15:30 ホストファミリーと帰宅	(ホームステイ)
8月19日(土)	終日、ホスト・ファミリーと過ごす	(ホームステイ)
8月20日(日)	終日、ホスト・ファミリーと過ごす	(ホームステイ)
8月21日(月)	7:50~登校、健康観察、日程確認 午前: 英語授業、オーストラリの食べ物や習慣 Prep. Students との交流活動 午後: 現地校生徒と授業参加 15:30 ホストファミリーと帰宅	(ホームステイ)
8月22日(火)	7:50~登校、健康観察、日程確認 午前: バララット市長舎訪問、市長と面会 市内見学(ブラック・ヒル他) 午後: Ballarat Aged Care Center(高齢者福祉施設) 燕市PR活動、日本文化紹介、交流会、帰校 15:30 ホストファミリーと帰宅	(ホームステイ)
8月23日(水)	7:50~登校、健康観察、日程確認 午前: 英語授業、オーストラリの自然や動物 午後: Ballarat Observatory Musium 見学 (天文学に関する博物館) 15:30 ホストファミリーと帰宅	(ホームステイ)
8月24日(木)	7:50~登校、健康観察、日程確認 午前: 英語授業、Thank You Card 作成 午後: Farewell 集会 現地校生徒による発表 燕市PR活動(プレゼンテーションでクイズ) 15:30 ホストファミリーと帰宅	

	19:00～ホストファミリーとのFarewell Party 燕市PR（プレゼンテーション） 日本文化（燕市）紹介（つばめっ子かるた：英語）	（ホームステイ）
8月25日（金）	6:50～登校、健康観察、日程確認 7:15 現地校を出発 8:30 メルボルン空港到着 10:30 メルボルン空港出発 16:20 シンガポール空港到着 18:30 新潟県人会との交流、 新潟市とのライブ交流合唱「故郷（ふるさと）」 19:50 マーライオン公園散策 20:30 ホテル到着	 （ホテル泊）
8月27日（土）	6:00 朝食、ホテル出発 7:00 シンガポール空港到着 9:25 シンガポール空港出発 17:30 成田空港到着 18:48 羽田エクスプレスにて東京駅へ出発 19:49 東京駅到着 20:04 東京駅出発 21:43 燕三条駅到着	

親善大使活動報告

1 PR活動の内容

（1）プレゼンテーション

- | | |
|------------------|----------------|
| ① 燕市の自然・地理・交通・農業 | ② 燕市の学校教育 |
| ③ 燕市の金属加工業 | ④ 燕市の観光・名所・名産品 |

（2）文化紹介

- | | |
|-----------------------------|---------------|
| ① つばめっ子かるた（英語版） | ② 燕市クイズ |
| ③ お手玉、紙風船、筆ペン習字、折り紙 | （プレゼンテーション形式） |
| ④ 歌「故郷（ふるさと）」（日本語で歌い、英語訳発表） | |

（3）表敬訪問等

- ① バララット市庁舎（表敬訪問）
- ② バララット高齢者福祉施設

2 場所・対象者・期日

No.	場所・対象者	期日
(1)	バララット高齢者施設	8月22日（火）
(2)	St. Alipius Parish School（Farewell 現地校生徒との交流会）	8月24日（木）
(3)	St. Alipius Parish School（Farewell Party ホストファミリー）	
(4)	新潟県人会シンガポール支部	8月25日（金）

大切な経験

燕市立小中川小学校 6 学年 三浦 陸

私は、オーストラリアでたくさんの貴重な経験をしました。最初は、初めての海外旅行で、とてもわくわくしていました。しかし、英語だけのホストファミリーとの生活は、食生活の違い、生活スタイルの違いなどにもとても戸惑いました。初日は、緊張のあまり自分が何を話したのかさえ、全く記憶にないほどでした。そんな、とても緊張している自分に、ホストファミリーの皆さんが、わかりやすくゆっくり話しかけてくれました。それで、なんとか意味を理解することができました。

ホストファミリーとの生活の中で、一番の思い出は週末に出かけたアポロベイへの旅行です。メルボルンから少し離れたアポロベイでは、スケールの大きい大自然に感動しました。森や公園、ビーチではたくさんの動物を見ることができました。そして、その大自然の中で、ホストファミリーとたくさん会話し、絆を深めることができました。

家の中では、だいたいホストファーザーが夕食を作り、ホストマザーは洗濯をしたり、毎日、私にランチを作って持たせたりしてくれました。だいたいがサンドイッチかハンバーガーでした。また、一番下の4才の子、フェルガルはいつも泣いていました。そんなとき、ホストマザーは彼を他の部屋へ連れて行き、泣き止むのを待っていて、日本とは違うなと感じました。

学校の始まりも9時で、日本より少し遅い始まりでした。終わるのも3時30分くらいで、日本より早めに帰宅しました。家に着くと、ベッドがきれいに片付いていて、自分でベッドメイキングをするのを忘れていたことに気付きました。自分でやるべきだったなと反省しています。

学校では、現地校の生徒たちと交流を深め、家ではホストファミリーと交流を深めたオーストラリアの日々は、過ぎてしまうととても短く感じました。オーストラリアを後にした私たちは、シンガポールに向けて出発し、シンガポールでは新潟県人会の方々と、夕食として美味しい日本食を食べながらの交流会でした。新潟市とのオンライン交流に、私たちは歌で参加しました。

最初は不安もあった海外への旅行でしたが、とても良い経験になりました。これから、少し不安があっても、いろいろな新しいことにチャレンジして、たくさんの経験を積むことが大切だと思いました。そして、燕市の将来のために役立つことができればいいなと思いました。

このようなチャンスを与えていただき、本当にありがとうございました。

My Precious Experience

Riku Miura
Konakagawa Elementary School the 6th grade

This summer we went to Australia and Singapore. I had a lot of precious experiences there. At first, I was very excited because it was the first time for me to go abroad. I was also very nervous because the life style in Australia is very different from the one in Japan. Of course I had to speak only English at home and at school. I was so nervous that I couldn't remember what I said at all. When I was very nervous, all of my host family spoke so slowly to me that I could understand what they said.

The best memory I have with the host family was our trip to Apollo Bay on the weekend. I was touched by the wonder of Australia's great nature. I could also see a lot of animals in the park, the forest and on the beach. While enjoying the great nature I could understand my host family more by talking with them a lot.

At home my host father usually cooked dinner and my host mother washed cloths and made me lunch for school. The lunch was always sandwiches or hamburgers. The youngest boy Fergal, who was 4 years old, always cried. When he cried, my host mother took him to a room and left him alone and waited until he finished crying. I thought that was also very different from Japan.

School starts at 9:00 there. It is later than in Japan. And it ends around 3:30 in the afternoon. It is earlier than in Japan. When I came home from school, I always found the bed was made, but I hadn't made my bed that morning. I regret not making it. I should have done that by myself at my home in Australia.

The days passed so fast in Australia as I strengthened the bonds with my friends at school and my host family at home. After Australia we visited Singapore. And there we interacted with the members of Niigata Kenjinkai. We ate a traditional Japanese dinner and sang "Furusato" in front of a camera of a computer that was connected to some people in Niigata City.

Even though I was very nervous traveling abroad for the first time, it was a very precious experience. From now on, I will challenge myself with something new a lot more even if I have some uneasiness. It is very important for me to have a lot of different experiences. I want to be a person who can contribute to Tsubame City some day.

I really appreciate all of the people who gave me such a great opportunity.



ホームステイした家



ホストファミリーとビーチで

学びの9日間

燕市立燕中学校 3学年 吉川 越萌

私は、この夏、燕市の親善大使として、オーストラリアのバララットに、9日間滞在しました。ホームステイを通して、オーストラリアについて、多くのことを学びました。ホームステイ先では、ホストファミリーとたくさん会話するなど、貴重な経験をすることができました。私が訪問したホストファミリーは、19歳の娘さんとお両親の3人家族でした。初めは、英語での会話が通じないことがあり、とても不安になっていました。しかし、コミュニケーションを図るしかないと思い、ジェスチャーをしたり、紙に書いたりして、たくさんの会話をするできるようになりました。このようにすることで自分の英語力も向上したと思います。やはり、英語力を向上させるには、たくさん会話することがとても大切なことだと実感しました。

週末には、ホストファミリーがソブリンヒルという場所に連れて行ってくれました。そこは、当時の金鉱のまちを再現したようなテーマパークのようなところで、金の採掘で栄えたバララットの歴史について学ぶことができました。その他にもホストファミリーは、娘さんのいとこの誕生日パーティーや、トランポリンができるジム、映画や野生のカンガルーを見に連れて行ってくれて、オーストラリアの日常を体験することができました。

現地校では、生徒たちと遊んだり、授業では教科以外にも、オーストラリアの文化などについても学んだりしました。生徒たちは私たちのためにドアを開けてくれるなど、とても親切に接してくれました。また、私たちにたくさん話しかけてくれるなど、とてもフレンドリーでした。そんな生徒たちと、昼休みには鬼ごっこをしたり、おんぶをしたりして遊び、コミュニケーションを深めました。

学校では、授業中は、私たちは英語だけを聞き、英語でしか話してはいけませんでしたので、これはとてもたいへんでした。しかし、徐々に慣れていき、だんだん自分から積極的に英語で質問できるようにもなりました。

オーストラリアの日々は、私にとって忘れることができないすばらしい思い出となりました。滞在中、私は外国映画にも興味をもちました。これから、自分が英語を学習するにあたって、英語の映画を取り入れたいと思うようになりました。

また、この海外派遣事業燕市親善大使としてのオーストラリア9日間で、失敗を恐れず、何事にもチャレンジする大切さを学ぶことができました。

9 Days to Learn

Kosumo Yoshikawa
Tsubame Junior High School 3rd grade

I visited Ballarat in Australia as a goodwill ambassador of Tsubame City for nine days this summer. I learned a lot of things during the home stay program in Australia. At the home where I stayed I could talk a lot with my host family. My host family had 3 members, a 19 years old girl and her parents. It was a great experience for me. At first, I sometimes couldn't communicate with them in English, so I sometimes felt nervous. But I thought I had to try. So I used gestures, drew pictures and wrote letters to communicate with them. At last I could communicate a lot with them. And I could improve my English ability. I realized it was very important to talk and communicate with a lot of people in English in order to improve my English ability.

On the weekend my host family took me to Sovereign Hill. It is a theme park which recreates a town that once prospered as a goldmine. There I could learn about the history of Ballarat which also prospered as a gold miner's town. They also took me to a birthday party for their daughter's cousin, as well as a gym so we could try to bounce on a trampoline, the movies and outside to see wild kangaroos. I was able to experience the daily Australian life.

At the school, we joined the classes with the students and learned about Australian culture and we played with them a lot. They were so kind to us and friendly that they opened doors for us and we talked a lot. We also enjoyed communication with them by playing tag, picking them up on our backs and so on after lunch.

In the classes we listened to English and we had to speak in English only. It was very hard for me. But I got used to speaking English day by day. At last I could ask questions in English positively in the classes.

The days in Australia are a wonderful memory that I can never forget. During those days I was interested in English movies. I want to use them to learn English. I have learned the importance of challenging things without any fear of failing, during my 9 days in Australia as a goodwill ambassador of Tsubame City.



ホストファミリーとソブリンヒルで



現地校の昼休み

当たり前の日々の大切さ

燕市立燕北中学校 2 学年 早川 芽生

私は、2017 年の夏休みに、燕市親善大使として、オーストラリアとシンガポールに行ってきました。わたしにとってオーストラリアとシンガポールでの日々はとても刺激的で、気が付いたことや学んだこと、吸収できたことや楽しかったことに溢れ、とても良い経験となりました。

期待と不安でいっぱいのお気持ちのまま、燕市を後にした 1 日目。オーストラリアで初めてホストファミリーと対面し、少し緊張感が和らいだ 3 日目。ホストファミリーと休日を共に過ごして、絆が深まった 5 日目と 6 日目。高齢者福祉施設を訪問し、初めて現地の人たちの前で、燕市の PR 活動や、日本文化の紹介を行った 8 日目。生徒たちとお別れの会や、さよならパーティーに参加し、楽しいひとときを過ごした 10 日目。ホストファミリーとの最後の夜を過ごして、名残惜しい別れを告げ、オーストラリアを後にした 11 日目。そして、燕に戻った 12 日目。長いようでとても短かった 12 日間でした。

この経験をとおして、私には気が付いたことがあります。それは「当たり前の日々の大切さ」です。「当たり前の日々の大切さは、過ぎてから気付くものだ。だから、1 日 1 日を精一杯生きろ。」というような言葉を耳にします。今回の経験は、まさにその言葉の意味をそのまま体感、実感した日々だったと思います。

ホームステイの当初は、不安しかありませんでした。しかし、日を重ねるにつれ、ホストファミリーとの絆は深まっていき、気が付くと、不安などはなくなっていました。そして、日々は過ぎ去り、とうとう迎えた別れの日、涙が溢れ、止まりませんでした。そのときに何気なく過ごしていた当たり前の日々の大切さに気が付いたのでした。ホストファミリーとの日々は、私にとって、特別で、かけがえのない「当たり前の日々」だったのです。今回の体験は、この大切なことに気付かせてくれたものでした。

今回、私は親善大使として派遣されましたが、その使命を忘れてしまうほど、心が安らぐときや、楽しいときがたくさんありました。

自分の中で、何かが吹っ切れて、積極性が芽生えるほど成長でき、とても良い経験になりました。

The Ordinary Days I Should Treasure

Mebae Hayakawa

Tsubame Kita Junior High School the 2nd grade

I visited Australia and Singapore as a goodwill ambassador of Tsubame City in 2017. I had a wonderful experience with days that were full of new and exciting things to learn while I was there. On the first day of our trip, I left Tsubame with big expectations and an uneasy feeling. Although I was nervous when I met my host family for the first time in Australia, by the third day I felt comfortable with them. After spending a few wonderful holidays with them on the fifth and the sixth days, the bond between us deepened. I was nervous when we made our presentation about Tsubame City and Japanese culture for the first time in front of the elderly people at their welfare facility in Ballarat on the eighth day. On the tenth day, I had fun at the farewell party. After the last night I stayed with my host family, we left Australia. I felt the time to say good-bye came so soon. At last I came back to Tsubame after twelve days. However after such a short time, it seemed the trip was just like a dream to me.

One of the things I realized on this trip was how precious the days and fantastic experiences with my host family were. So, I felt that I should live my life doing my best because those special and precious days will never come back. After everything, I miss the days that I struggled with my anxiety, and the day that I started feeling comfortable. Also, I really miss my host family because they made me feel comfortable and even happy. I couldn't stop my tears from streaming down on my cheeks when I had to say good-bye to them. Those days with my host family were the special and precious “ordinary days” for me. This trip, for me as a goodwill ambassador, made me realize important things through various kinds of experiences in foreign countries. I, as just a person, not as a goodwill ambassador, felt incredibly comfortable and happy.

Through this trip, I feel like I became a new person who now has a positive attitude which I didn't have before.

I would like to thank everybody who gave me the great chance to change myself through the fantastic trip to Australia and Singapore.



ホストファミリーと



フットボールのゲームへ

チャレンジすることの大切さ

燕市立吉田中学校 2学年 白倉 稜太

燕市の親善大使に選ばれてから、オーストラリアに向けて出発するまで、研修会が数回あり、家での課題も含めて研修内容は盛り沢山で、しなければならぬ準備がたくさんありました。その中で、自分の中に、不安と期待が入り交じって膨らんでいきました。そして、ようやく研修を終えて日本を発ち、1日目、メルボルンの市内観光やバラットのワイルドパークでの見学では、日本とまるで異なる街並みや風景、そして南半球の珍しい動物たちを目の当たりにし、自分がオーストラリアに来たことを実感して感動しました。夕方には、現地校を訪れ、ホストファミリーと初めて対面し、私のホームステイが始まりました。

私を受け入れてくださったホストファミリーは、幼い女の子が2人いる、とても賑やかな家族でした。翌日の朝からは、現地校に登校して、ウェルカムセレモニーに参加したり、英語の授業を受けたり、現地校生徒と一緒に学校の教科の授業を受けたりして、親善大使として、現地の生徒との交流活動も始まりました。始めは、現地校生徒との交流は、ホストファミリーとの交流よりも緊張せずに、英語を話すことができました。しかし、ホストファミリーは休日にショッピングやフットボールの試合に連れて行ってくれました。また、夜にはバーベキューをしてくれるなど、楽しい食事などで、だんだん緊張感もほぐれてきて、ホストファミリーとも楽しくコミュニケーションができるようになりました。

週開け後は、様々な場所で燕市親善大使としてのPR活動を行いました。事前準備をしてきた結果、当日の変更にも上手く対応し、現地の高齢者施設の入所者や、現地校生徒、その保護者の皆様に楽しんでもらうことができました。最初、不安のあった英語でのコミュニケーションも、日本での日常生活についての画像を見せて説明するなど、日が経つにつれて自信も出てきて、だんだん楽しむことができるようになりました。

今回の海外派遣をとおして、たくさんのものを得ることができました。日本での生活で、普段当たり前に思っていることは、決して当たり前ではないということ、不安なことでも勇気をもって取り組むことで、成功へつながることがあるなどです。様々なことにも勇気をもってチャレンジすることの大切さを実感しました。これから、この体験を活かして、積極的にいろいろなことにチャレンジしていきたいと思います。

The Importance of Challenging

Ryota Shirakura
Yoshida Junior High School 2nd grade

Since I was chosen as a goodwill ambassador of Tsubame City, I had to join several meetings to prepare for the trip to Australia. I had a lot of things to do, and sometimes I even had homework. At that time I was sometimes very nervous and I had a lot of expectations, so both of these feelings were mixed in my mind. After we finished our preparations, we left Japan. On the first day in Australia, I was so impressed when I saw the very different sights of Melbourne city. I also saw some rare animals of the southern hemisphere at the Wild Park in Ballarat. Actually, this experience made me feel that I really was in Australia. In the evening, after I visited the school in Ballarat, I met my host family for the first time and started my life with them.

My host family had two little girls and was very nice and cheerful. The next morning I visited the school as an ambassador. I joined the welcome ceremony and studied in the classes with the students there. At first, I could talk more without nervousness with the students than my host family. On the weekend my host family took me to the shopping mall and a stadium to see a football game. They tried to make me feel at home by holding a fun and relaxed barbecue party. I was gradually getting used to having conversations with my host family there.

After the fun and relaxing weekend, we made some presentations to introduce Tsubame City as the goodwill ambassadors. Because of our good preparation, our presentations went great. Even though some quick changes had to be made, we could adjust to them without any trouble. Elderly people at the welfare facility for seniors and local students seemed to enjoy our presentations very much. Using lots of photos, I could explain about our Japanese culture and lives without any problems. I started having confidence in myself day by day up to the point that I could even enjoy it.

I learned so many things through this trip. What I experienced in Australia and Singapore was very different from what I've experienced in Japan before. I realized that I could break through the wall in front of me to be successful by having self confidence and courage. I realized that it was very important for me to challenge many things with courage and confidence.



ホストファミリーと



ホストファミリーとフットボールのゲーム

貴重な体験

燕市立吉田中学校 2年 清田 万智

私はこの夏、燕市の親善大使としてオーストラリアを訪問し、そこで、すばらしい時間を過ごすことができました。初めて、海外の家にホームステイをして、初日にはとても緊張して、これから8日間もここで過ごすことができるのだろうかとても不安になりました。しかし、ホストファミリーは私に対して、とても親切に接してくれたので、すぐに打ち解けることができました。

最初は英語で質問されたときに、聞き返すことが怖くて、聞き返すくらいなら質問なんてされない方がましだと思って、自分に与えられた部屋に居ることもありました。そんな私に、ホストファミリーはゆっくりと、そしてジェスチャーを用いて話しかけてくれたので、ホストファミリーが私に対してとても気を遣ってくれていることに、やっと気が付きました。それから、聞き返すことが怖くなくなり、自分から、考えたり思ったりしたことを口に出せるようになってきて、たくさんコミュニケーションできるようになりました。スーパーマーケットなどに買い物に行きたいという希望についても、自分からお願いすることができるようになるなど、とても貴重な経験になりました。

また、オーストラリアの学校と日本の学校についての違いにもとても驚きました。オーストラリアの学校については、ある程度のことは聞いて知っているつもりでしたが、異なることが沢山ありました。私たちが訪れた現地校では給食がなく、昼食にはサンドイッチなどを家から持って行きます。私が一番驚いたことは、リセスという昼食前の休憩時間でした。リセスとは11時にある、長い休憩時間で、自分たちがもってきた果物やクッキーなどの軽食を食べることができる時間です。その時間になると、現地校の生徒たちがおやつを食べた後で、私たちを遊びに誘ってくれました。そのリセスの後、一コマ授業があり、その後は、休憩を含めた昼食時間があります。昼食の他に、学校におやつを持って行って食べることができる時間があるって、とても羨ましく思いました。日本にもこんな時間があればいいなと思いました。

オーストラリアでは、初めてのこともあり、疲れたり、びっくりしたりすることもたくさんありましたが、とても楽しく、そして、とても貴重なものとなりました。この経験で得た沢山のことをこれからの生活の中で生かしていきたいと思っています。

My Precious Experience

Machi Seida
Yoshida Junior High School 2nd grade

Last summer, I spent a wonderful time in Australia as a goodwill ambassador. It was the first time for me to go abroad and experience a home-stay, so I was very nervous and had no idea if I could get through 8 days with my host family. However, my host family was so nice to me and made me feel at home. I felt too awkward to have a conversation with my host family at the beginning because I was so afraid of making mistakes and worried if I couldn't understand what they were saying. So, I decided to stay in my room in my host family's house. Even though I was not friendly enough to have a conversation with them, I realized that my host family was trying so hard to communicate with me by speaking slowly with lots of gestures. Because of their positive attitude, I became able to share my opinion and became able to enjoy talking. Once, I could ask my host parents to take me to the supermarket even though it was so awkward to ask them to do something for me.

Also, I was surprised about the big difference between schools in Australia and Japan. Although I had some information about the school I visited in Australia, I got surprised at some points.

First, I found out that students don't have school lunch. They bring sandwiches for lunch, instead.

Second, the most surprising thing for me was that students had a recess at about 11:00 am and had a snack like fruits, cookies and so on. After they had a snack, some of the students asked us to play with them. They had one more class before the lunch break, and then they had lunch and enjoyed the break. I couldn't imagine that students were allowed to bring snacks to their school, but I thought it was a good idea and I really hope I could introduce this system in my school in Japan.

In conclusion, I had a variety of new experiences in Australia. Some of them made me feel surprised and tired, but all of those experiences were so precious for me and made good memories. I'm sure that all the things I experienced in Australia will be a good influence in my future.



ホストファミリーとケーキ作り



現地校で、低学年生徒との交流

価値あるオーストラリアでの時間 ～家族の大切さ～

燕市立吉田中学校 2学年 関川 大翔

2017年の夏、私はオーストラリアですばらしい時間を過ごすことができました。初めて英語だけが話される、南半球の大地に足をつけたときにはとても不安でした。現地校で、ホストファミリーと初めて対面し、その夜からホームステイが始まりました。家では、ホストファミリーと会話を始めても、長く続けることができませんでした。また、ホストファミリーから英語で質問されても、その質問の意味をはっきりと理解することができず、返事が曖昧になってしまうことがたくさんありました。そして、2日後にはホームシックになってしまいました。朝、家から車で送ってもらい、現地校に登校して、そこで親善大使のみんなと会い、ほっとして会話できることで、本当に安心感をもつことができました。また、日本にいる家族と連絡してみたところ、その安心感が増してきました。そして、その日からなぜか不安感は薄らいで、ホストファミリーとも思いっきり笑い、会話を楽しむことができるようになりました。毎日、夕食の手伝いをしながら、その日にあったできごとについて、お互いに話し合いました。学校で教わったことや昼休みに現地校生徒とサッカーをしたことなど、いろいろなことを話しました。ホストファミリーとの料理の時間は、お互いを知り合う絶好の機会となりました。また、夕食後には、ホストファミリーとゲームをしながら、長い時間、ずっと会話をすることができるようになりました。「この食べ物については、知っていますか。」など、オーストラリアの食べ物について質問するなどの話題も多く、お互いのことについて、尋ねたり、答えたりすることで絆を深めることができる時間でした。

オーストラリアに着いたときはホームシックになるほど本当に不安だったのに、お別れの日が近づくにつれ、楽しい時間だけが、思い出となっていました。そして、別れの日がやってきて、お世話になったホストファミリーとの別れは、本当にとても悲しいものとなりました。

この海外派遣の期間は、とても思い出深く、もっと長くオーストラリアに居たいと思える時間でした。

Worthwhile Time in Australia ～Importance of My Family ～

Daito Sekikawa

Yoshida Junior High School 2nd Grade

I spent a very happy time in Australia and Singapore for about two weeks during the summer vacation. I was nervous when I first got to Australia because I knew that I had to speak English. I met my host family at the local school for the first time, and my home stay started. I had a hard time communicating with my host family in English, because I couldn't understand what they were saying. So I couldn't keep talking with them for very long. Two days later I got homesick. My host parents gave me a ride to the school, and when I saw the other Goodwill Ambassadors from Tsubame City, I felt at home. I also talked with my family in Japan on the phone, and they made me feel really safe. After that, I could enjoy the time with my host family talking in English and laughing from my bottom of my heart. My host family and I talked about our day at school while we were cooking dinner. I talked about what I learned in classes at the school and I also talked about the great time I had playing soccer with the students during the lunch break. Talking while we were cooking was a very good chance for both my host family and me to get to know each other more and get closer to each other. Playing games after dinner also gave us a chance to get to know each other, by asking some questions about the food and culture in Australia and Japan.

At the beginning, I was so nervous that I became homesick, but since my host family and I got closer to each other, that feeling changed into a very good time and very good memories. I didn't even want to say good-bye to my host family after all. That was too sad.

I will never forget my fantastic days in Australia, and would like to visit there again and stay there much longer some day.



ホストファミリーとリビングで



バララット庁舎、議場の議員席で

コミュニケーションについて学んだこと

燕市立吉田中学校 3学年 佐藤 友里夏

私はオーストラリアでの9日間をとおして、とても素晴らしい時間を過ごすことができました。長いフライトの後で、やっとオーストラリアに着き、初めてホストファミリーと対面しました。ホームステイが始まった最初は、緊張と不安でいっぱいでした。楽しい気持ちなどを感じる余裕は少しもないくらいでした。しかし、そんな私に対して私のホストファミリーは、いつもフレンドリーに話しかけてきてくれました。それで、少しずつ、ホームステイ先の家では、ホストファミリーと楽しく、たくさん話することができるようになりました。また、学校では、現地校の生徒たちが「Hello!」と英語で、また「こんにちは。」と日本語でも私たちに話しかけてくれました。少し不安な私はとてもうれしい気持ちになりました。彼らが積極的に話しかけてくれたおかげで、楽しい気持ちにさせてもらって、不安感がとても軽くなったことから、私は、現地校でも現地校の生徒に、そして日本に帰ったら、現地校の生徒たちが私にしてくれたように、自分から積極的に、たくさん挨拶をしていこうと思いました。

ホームステイ先のホストファミリーは、休日には私をメルボルンの街やマーケット、日本食のレストランなど、いろいろなところに連れて行ってくれました。メルボルンのマーケットには、日本の屋台のような出店がたくさん並んでいて、活気にあふれ、賑やかな感じがしました。休日は、このようにホストファミリーと一緒に、とても充実した時間を過ごしました。

また、私はオーストラリアで生活して、「ここでは自分自身が努力しないと生きていくことはできない」ということを学びました。自分の身の周りの人たちは、みんなとても親切に接してくれましたが、パスポートなどを含めて、自分自身の持ち物など、大切な物は、自分自身で管理する必要があるということを実感しました。また、何かを伝えようとするときは、ジェスチャーなどを使って、全身全霊で話すことや、相手から聞くときには、目をしっかりと見て、全身全霊で聞き取り感じ取ることが大切だということも学びました。

今まで、英語を用いたコミュニケーションについては、そこまで深くも考えていなかった自分にとっては、これはなかなか難しいことだと実感しました。しかし、この経験をとおして、これがとても大切だということも実感しました。

この派遣事業をとおして、とても良い経験ができたと思っています。

I Learned a Lot About Communication

Yurika Sato

Yoshida Junior High School 3rd grade

I had a very good time during the nine days in Australia. After the long flight we arrived in Australia and met our host families for the first time. At first I was too nervous to have fun at all. But my host family was so friendly and talked to me all the time that I could talk a lot to them in English day by day.

At the school, the students talked to us and were very friendly. They said, “Hello!” or “Kon-nichi-wa” in Japanese. I thought I should have a positive attitude when talking to people when I came back to Japan. And I thought I should be positive when talking to the students in English like they did to us, because their positive attitude reduced my stress and tension and made me feel so happy.

I enjoyed the holidays very much with my host family. They took me to the City of Melbourne, a market, a Japanese restaurant and so on in Melbourne. I saw many food stands at the market and I thought they were very similar to the ones in Japan. The market was very busy and so crowded. I had great time with them.

Through this trip in Australia, I learned that I needed to take responsibility for my own behavior to survive in foreign countries. I thought that nobody was responsible for what I did but me. I had to manage my belongings by myself. For example, I had to keep my valuable things like my passport and so on safe by myself.

I also felt that I needed to do my best to communicate with foreign people using gesture, eye contact and so on to make them understand what I mean and to understand what they mean even when I'm with Japanese people. I never thought about what communication in English means very much before. So now I think it is difficult for me to communicate with foreign people using English. And I think I should break through the wall of difficulty in English communication.

I appreciate that this trip gave me a great chance to realize what the most important things in communication are.



ホストファミリー家族とカフェで



ホストファミリーの子ども仲間と

挑戦することの大切さ

燕市立分水中学校 2 学年 浅野 レイチェル 理咲子

2017 年の夏は、私にとって忘れることのできない特別なものになりました。燕市の親善大使としてオーストラリアを訪れることができたからです。オーストラリアでは、本当に素晴らしい時間を過ごすことができました。そこで、9 日間のホームステイを経験することができました。私が滞在したホストファミリーは私に対して、とても優しく、そしてフレンドリーでした。彼らは、まるで家族の一員のように私に接してくれました。

そんなある一日には、ソブリンヒルというところにある、ホストファミリーの親戚の誕生日会に私を連れて行ってくれました。ソブリンヒルは、かつて金鉱の街として栄えた当時の街並みが再現された観光地です。そこで、当時の衣服を着たスタッフと写真を撮ったり、バララットの歴史を学んだりしました。ホストファミリーの家では、一緒に夕食を作ったり、ゲームをしたりしながら、いろいろなことについてたくさん話をしました。彼らと一緒に過ごす時間は、本当に幸せな時間となりました。

平日には、親善大使としてバララットの市庁舎を表敬訪問し、女性市長に直接お目にかかり、伝統ある豪華な市庁舎や、ユーリカ砦の反乱などについて説明を受けました。また、特別にユーリカの旗のバッジをいただくなど、特別な待遇を受けました。また、高齢者施設訪問でも、PR 活動などを行ってきました。

学校では、主に午前中には英語を学ぶ授業を受けました。先生は私たちに「授業中は、友人同士でも日本語を使わず、英語だけを使いなさい。」とおっしゃいました。始めはとてもたいへんでした。しかしそのことで、コミュニケーションにおいて一番大切なことは、「伝えようとする気持ち」だということを知りました。それは英語でも日本語でも同じだと思いました。また、現地校の生徒たちとは一緒に授業を受けたり、昼休みには遊んだりして、とても楽しい思い出となっています。

私がオーストラリアでの日々で学んだことは、オーストラリアの生活や文化だけでなく、いろいろなことに対して、失敗を恐れず挑戦するチャレンジ精神の大切さでした。

この派遣事業での経験は、私を成長させてくれました。この経験をこれからの将来に活かしていきたいと思っています。

Challenge Is Very Important

Risako Rachal Asano
Bunsui Junior High School 2nd grade

Last summer in 2017 was special and unforgettable for me because I visited Australia as a Goodwill Ambassador of Tsubame City and I had a great time there. I stayed in my host family's house for nine days. My host family was so kind and friendly to me. They even treated me as one of their family members.

One day, they took me to Sovereign Hill, which is famous for a gold mine. I enjoyed taking pictures with people wearing classic costumes in a recreated old gold mining town. I learned the history of Ballarat there, too. After that I went to my host family's relative's house to join a birthday party. I enjoyed cooking dinner together with the family, playing games together, and talking a lot together. I was so happy I could spend a wonderful time with them.

We visited the Ballarat Town Hall to see the mayor of Ballarat as Goodwill Ambassadors of Tsubame City, and she showed us around the gorgeous historical building of the city hall. She also explained about the Eureka stockade and rebellion. She also gave us special badges of the Eureka flag. She treated us as special guests. I visited the senior care facility and did a presentation about Tsubame City and Japanese culture.

At St. Alipius Parish School, which we visited, we had some English classes in the morning, and played with students after lunch. In the English classes our teacher told us to use only English, not Japanese. However it was hard for us to talk only in English at the beginning, I could learn that the most important thing was that I tried to do my best to make myself understood. So I thought I shouldn't be afraid of making mistakes and I should do the same thing even when I talk even in Japanese. I had a great time playing with the students there during the recess, too.

After all, I learned that I should not be afraid of making mistakes when I try to learn something such as foreign culture and languages.

Through the experience, I improved myself a lot, so I want to use my experience abroad in the future.



今回の海外派遣事業をとおして、私は様々な面で成長することができました。特に印象に残っているのは、初めてのホームステイです。最初は、不安な気持ちから、とても緊張していました。ホストマザーの言っていることを理解できず、本当に悲しい気持ちになることがありました。そんな私の気持ちを察するように、彼女はゆっくりと話したり、手紙を書いたりしてくれました。その心遣いに触れて、私はとてもうれしく思いました。それで、私ももっと積極的に話しかけるようにしようと思うようになりました。例えば、自分が知っている単語を駆使して、会話をするなどです。自分なりに努力して、会話をしようと思っていると、ホストファミリーとの絆がだんだん深まっていくのを感じることができるようになってきました。

ホストファミリーは週末には、バララットの市内観光に連れて行ってくれたり、ホストファミリーの祖母や祖父の家に連れて行ってくれたりしました。私に対して、本当の家族の一員のように接してくれました。また、動物園ではなく、オーストラリアの自然の中で、大地で生きている野生のカンガルーも見ることができました。本当に貴重な経験となりました。

現地では、セント・アリピアス・パリッシュ・スクールという学校に、ホストブラザーと一緒に通いました。現地校は日本の学校と大きな違いがありました。昼食前にあるリセスと呼ばれるモーニングティーの時間には、生徒たちもスナックを食べることができる休憩時間がありました。その時間には、現地校生徒たちと一緒に遊びました。また、学校の給食がないので、ホストマザーが毎日ランチを持たせてくれました。持たせていただいたランチも日本のお弁当とは全く違ったものでした。日本の学校生活とは全く異なるオーストラリアの学校生活をとおして、オーストラリアの本当の文化に直接触れることができました。滞在していたバララットでは、昔、金が取れて栄えたなど、その街の歴史についても学ぶことができました。

燕市親善大使としてはプレゼンなどをとおして、現地の人たちに、燕市の魅力や日本の文化を十分に伝えることができたと思います。この海外派遣での日々は、私にとって素晴らしい経験となり、また、素晴らしい思い出になりました。しかし、私の英語力はまだ十分でないことも実感しました。今回の経験を活かして、さらに自分自身を向上させていきたいと思いました。

I was able to progress in various aspects of my ability through the goodwill ambassadors program of Tsubame City. Especially the days of my first home stay in Australia were the most impressive memories. At the beginning I was afraid and very nervous. Sometimes I was very sad because I couldn't understand the English words my host mother said. She seemed to understand my situation and talked to me very slowly or wrote to me. I was touched by her a lot and I wanted to talk more to the members of my host family. For example, talking with the English words I have known and so on. As I tried harder to communicate with them, I felt that the bond between us has been strengthened deeper and deeper.

On the weekend my host family took me around the city of Ballarat for sightseeing and to visit their grandparents' house. They treated me just like a member of their own family. I also could see some wild kangaroos living in nature, not in the zoo. That was a really great experience.

In Australia, I went to a school named St. Alipius Parish School with my host brother. It was very different from ones in Japan. They have time to get rest and eat snacks for the teachers and students. They call it recess. We played with the students during recess. They don't have school lunch, so my host mother made me my lunch and I brought it every day. Lunch is also quite different from one in Japan. During those days which were very different from in Japan I came into contact with Australian culture directly. And I also learned the history of Ballarat. It was a town that prospered as a goldfield.

I could tell the people there the glam of Tsubame City through our presentation. The experience during those days became my great memory. However, I realized my English ability wasn't enough, so I will make a lot of effort to improve my English ability using my experiences.



ホストファミリーとリビングで



ホストファミリーとお菓子作り

オーストラリアでの素晴らしいとき

奈新潟県立燕中等教育学校 3学年 松田 一樹

私は 2017 年の夏にオーストラリアで、すばらしい時間を過ごしました。燕市の親善大使としてバララットを訪問し、そこに 9 日間滞在しました。その滞在をとおして、オーストラリアの人々はとても優しいと感じました。今回の旅は私にとっては初めての海外旅行で、9 日間、他人の家に泊まるホームステイでした。私にとっては、それまで経験したことがないほど不安でいっぱいでした。親善大使としてオーストラリアを訪問するために、その選考として、英語のスピーチコンテストに出場しましたが、そのときの緊張感や不安感にも勝るとも劣らないくらいでした。やっと、選考されたうれしさの反面、自分の英語はしっかり伝わるのだろうかとか、ホストファミリーに嫌われたり、冷たくされたりしないだろうかなどと考えていました。しかし、そんな心配は杞憂でした。

オーストラリアへの訪問前は、数日間に及ぶ研修がありました。なかなかたいへんな研修で、燕市の PR 活動や日本文化を紹介するための英語などを学びました。その研修会や出発式を経て、いくらか自信を付けたと思っていましたが、いざ、ホストファミリーを目の前にすると、やはり不安が先行しました。また、現地校でも午前中には英語のレッスンがありましたが、ホストファミリーや現地校の生徒たちと、自由に会話することについては、十分な自信にはつながりませんでした。しかし、ホストファミリーはそんな私が抱いていたような心配を一掃してくれました。彼らは常に私の英語を一生懸命に聞いて、理解しようとしてくれました。また、話すときには、私の英語レベルに合わせた表現で話しかけてくれました。そのおかげで、オーストラリアでの日常生活をはじめ、様々な異文化を体験することができました。

食事や生活様式が日本のものとは異なることは、知識では知っていたつもりでした。しかし、いざ自分が実際に体験することによって、本当の意味でその違いを実感することができました。ホストファミリーがいつも私のことを考えて接してくれたおかげで、日本とは異なる生活にも、なんとか対応することができました。心配していた英会話や生活にもすぐに慣れ、本当に楽しく生活することができました。ホストファミリーには本当に感謝しています。

私は、今回の素晴らしい体験を、一生、忘れることはないでしょう。

Wonderful Time in Australia

Itsuki Matsuda
Tsubame Secondary School 3rd Grade

I had a wonderful time in Australia in summer of 2017. I visited Ballarat in Australia as a goodwill ambassador of Tsubame City for about nine days. Through the stay, I felt the people I met in Australia were very kind. This was my first time to go abroad, and stay home as to do a home stay for nine days. I was very nervous because that I have never been before it was my first time there. In order to visit Australia, I took part in the English Speech Contest to be chosen as the an ambassador. At that time, I was also nervous and afraid, the feeling was as well too. I was very happy to be chosen and I also wondered that if I could communicate in English and if the host family might treat me coldly. But those were needless fears.

Before visiting Australia, we had to join the meetings which we prepared for the presentation and so on for several days. It was so hard for me to learn English that we introduced Tsubame City or Japanese culture with. I thought I could have some confidence, but I was very nervous to talk with them in English. However, we studied English at the school in the morning, and it was a little useful to have confidence talking with them in English freely. But my host family purged such kind nervousness of from my mind. They talked to me with easy English expressions that I could understand very well. So I could experience daily life in Australia and various cultures there.

The way of life in Australia is very different from the one in Japan, for example, eating habits and so on. I thought I understood the differences, but I could really understand them through my real experiences in Australia. Thanks to my host family, I could get used to their way of life. I also could get used to communication in English I have been afraid which made me nervous. At last I really enjoyed the life there. I appreciated my host family very much.

I will never forget my wonderful time in Australia for my life.



ホストファミリーとの週末



お別れパーティーで

宝物となった時間

新潟県立燕中等教育学校 3学年 向井 萌笑

私はオーストラリアで、かけがえのない時間を過ごしました。燕市の親善大使としてバララットを訪問し、そこに9日間滞在しました。その滞在をとおして、私はそれまで経験したことのない、たくさんのすばらしいことを経験することができました。特に心に残った現地校とホームステイ先でのことについて述べます。

現地校では生徒たちとたくさんふれ合うことができ、交流を深めることができました。彼らはいつも元気で明るく、私たちに対して積極的に話しかけてくれました。それで、私も一生懸命返事をして、会話することができました。現地校では、日本語の授業も行われていて、日本の文化がオーストラリアのこんなところでも学ばれていることがわかりました。

ホームステイ先では、彼らは私を本当の家族の一員のように接してくれました。だから日常の一つ一つの物事を、彼らと一緒に楽しむことができました。また、週末にはミュージカルや買い物、ビーチなどいろいろなところに連れて行ってくれました。ビーチに行くまでの間、車の中では英語でたくさん会話することができたので、とても楽しく過ごせました。この滞在をとおして出会ったオーストラリアの人たちと接して感じたことは、彼らの多くは、初対面の私にも、気軽に話しかけてくれるということでした。それは、初めてその土地にきた不安をもった人にとっては、とても心地よく安心感を得られるものです。私もオーストラリアの人たちを見習い、初めて出会う人にも、こちらから笑顔で接したいと思いました。

ホストファミリーはいつも笑顔で私の目を見て話しかけてくれました。始めはとても緊張していた私も、ホストファミリーが笑顔で迎えてくれたことで、緊張はすぐに消え、とても楽しい日々を送ることができました。その日々は本当に私の宝物となりました。最後のお別れの日、とても悲しくて、もっともっとオーストラリアに居たいと心から思いました。いつの日か、もっと成長して、もう一度オーストラリアに戻って、ホストファミリーに会いたいと思いました。

今回の燕市親善大使としての活動は、確実に私の力になったと思います。いろいろ大変なこともありましたが、がんばって挑戦してみて本当に良かったと思っています。これからも、様々なことに挑戦して自分を磨いていきたいです。

My Treasured Time

Moe Mukai
Tsubame Secondary School 3rd Grade

I had a really precious wonderful time in Australia in the summer of 2017. I visited Ballarat as the a Tsubame City ambassador of goodwill and stayed there for nine days. I experienced various wonderful things that I have never experienced before. I will describe my school days there and the days with my host family.

At the school we deepened our friendship with the students there through a lot of communication with them. They were always cheerful, fine and talked positively to us. So I could try very hard to talk back to them very hard and I could communicate with them in English. They have Japanese classes at school. And I found that Japanese culture and so on were learned in such a place in Australia like that.

My host family treated me just like a member of their own family. So I enjoyed every single day of the life there with them. On the weekend they took me to the beach and the city for shopping and seeing a musical and so on. During those days I found that the many people I met in Australia talked positively easily to the people that they met for the first time. It is very comfortable for the nervous strangers who came there for the first time to stay there or communicate with them. So I felt that I wanted to talk positively easily and communicate with the people I met for the first time.

All of the members of the my host family always talked to me with a smile. At first I was very nervous, but they welcomed me with such nice smiles. That made me relaxed a lot, and I could have a great time with them. Those days when I spent with them are my treasure. The last day of my visit I was very sad and I really wanted to stay there much longer. Someday I will grow up and return to Australia again to see the all of the members of the my host family.

I think I could improve myself through this experience as a member of Tsubame City ambassador of goodwill. There were many difficult things for me to do. But it was good for me to have this kind of opportunity. I want to improve myself through various challenging various difficult things.



ホストファミリーとの週末、ビーチで



現地校、低学年生徒に囲まれて

私は燕市の親善大使としてオーストラリアですばらしい時間を過ごしました。バララットを訪問し、9日間生活してみて、日本との違いを感じたことが沢山あります。まずは食事でした。ホストファミリーは、食事の際、食べ始めるときに「いただきます」のような言葉を言わずに食べ始めました。初日、「いただきます」の合図がなかったので、いつが食べるタイミングかわかりませんでした。日本では、家庭でも学校でも、「いただきます」の合図で一斉に食べ始めるのが当たり前の習慣だったので、本当に戸惑いました。

次に、オーストラリアでは、多くの人が見ず知らずの他人にも気軽に話しかけることが多いと思いました。ホストファミリーが私をビーチに連れて行ってくれたとき、ホストマザーは、そこにいた見ず知らずと思われる人と、たくさん話をしていました。現地校の生徒たちも、気軽に笑顔で声をかけてくれました。また、通りを歩いていて、すれ違うときに少し身体が触れても、わざわざ振り返って“Sorry.”と言ってくれる人がほとんどでした。日本では同じように少し肩が触れても、お互いに「すみません。」などと言わずに、嫌な思いだけを感じたり、嫌な顔をしたりするなどがほとんどのような気がします。そこは、オーストラリアの人たちを見習ったほうがいいと感じました。みんな、とてもフレンドリーで、優しい人たちが多いなと思いました。

学校で日本との違いを感じたのは、「リセス」という時間です。日本の学校にはない時間なのでとても新鮮に感じました。リセスとは、スナックを食べることができる休憩時間で、現地校では10分間おやつなどを食べた後、遊んだり休憩したりすることができる35分間の時間です。朝食として食べる量が少ない私にとっては、リセスがあってちょうどいいなと思いました。リセスの後は授業があり、その後は昼食とまた休憩時間でした。季節は冬の終わりだったので、雨が強く降り、寒い日もありましたが、現地校の生徒たちは雨を気にしないで外で遊んでいました。私たちを誘ってくれたので私たちも一緒に遊びました。特にバスケットボールは楽しかったです。リセスは、できれば日本の学校でも取り入れてもらえたらいいなと思いました。

日本の学校は休憩時間が短く学習時間は長いけど、現地校はゆったりしていて最高でした。午後3時過ぎには、生徒も先生方も帰っていました。自然豊かで、自由も多く、楽しく豊かに暮らすことができる良い環境があることを実感しました。人間が人間らしく生活できるオーストラリアに、今度は自分自身の力で行くことができるように頑張っていきたいと思いました。

My Dream Time in Australia

Shiho Tanabe

Niigata Daiichi Junior High School 3rd Grade

I had a wonderful time in Australia as a goodwill ambassador of Tsubame City. I visited Ballarat and stayed there for nine days and I found a lot of differences between Australia and Japan. First of all, I experienced the difference of the meals. At my home stay, before they eat, they didn't say words like "Itadakimasu" or so on. So I didn't know when to start to eat without any sign like saying "Itadakimasu". In Japan, both at school and at home, we usually start to eat after saying "Itadakimasu". So I was really confused.

I think many people in Australia talked to even strangers easily. When my host family took me to a beach, the mother talked to a woman who she didn't know a lot there. The students at school also talked to us casually. When I brushed against somebody passing by on the street, the people there always turned to me and said to me, "Excuse me," or "I'm sorry," with smiles. In that case, I think most Japanese people don't do that but they feel bad or make a face at each other. So it's better for Japanese people to do as Australian people do. I thought all of the people I met in Australia were very kind and friendly.

At the school, there was a break time called recess. I think that was different from the break time of ordinary Japanese schools. During recess the students and teachers could eat snacks for ten minutes and have a break for minutes. Because I don't eat a lot for breakfast, I am hungry before lunch time. So recess was great for me. After recess we had another class, and after that class we also had lunch time and another break time. A lot of the students played on the playground after lunch even if the weather was bad. It was the end of winter. Sometimes it rained heavily and it was very cold outside. But they didn't care about the bad weather. They called for us and we played basketball together. It was a lot of fun. I want Japanese schools to have recess.

We have a short break time and long class time at school in Japan. The education system is flexible in Australia. It was very good for me. I hope the Japanese educational system can be more flexible. Before three thirty in the afternoon, students and even teachers go home. I will continue to do my best and improve myself to visit Australia again by myself. There, I can live a humane life.



ホストファミリーと週末、ビーチで



現地校の交流授業

「目標と成果」

行き先	オーストラリア（シンガポール）	氏名	三浦 陸
-----	-----------------	----	------

1 海外派遣事業、親善大使としての目標を決めましょう。

目標① ホームステイ先や現地校の人に積極的に話しかけ友達をつくるとともに自分の英語力を高めることです。

目標② オーストラリアの生活スタイルや文化を学び日本との文化の違いやよいところを発見したいです。

2 目標は達成できましたか？

目標①について 積極的に英語でコミュニケーションをとりホストファミリーや現地の生徒と遊ぶことができたので達成できたと思います。

目標②について オーストラリアでは寝るまで靴で生活することや、生活の中に宗教がかかっていることや、自然を大切にしていることが分かったので達成できたと思います。

3 最も思い出に残ったことを書いてください。

ホストファミリーと旅行に行ったことです。11月にビーチを散歩したり、公園に行ったり、森を歩いたりなどオーストラリアの自然を感じる事ができました。

4 これから頑張りたいことや挑戦してみたいことを書いてください。

これから頑張りたいことは英検です。身につけた英語力を生かして級を取れるように頑張りたいです。

5 海外派遣を希望する人へのアドバイスを書いてください。

ホームステイ先で英語で伝えられなくても身振り手振りなどのジェスチャーや絵をかいてかんばれば相手を理解しようと努力してくれます。あきらめずにかんばってください。

「目標と成果」

行き先	オーストラリア（シンガポール）	氏名	吉川 越萌
-----	-----------------	----	-------

1 海外派遣事業、親善大使としての目標を決めましょう。

目標① 現地の人と自分ができる最大限の英語力を使って、積極的に会話をし、英語力を向上させる。

目標② 親善大使として燕の魅力をいろんな人に伝え、オーストラリアについて学ぶ。

2 目標は達成できましたか？

目標①について ホストファミリーと一緒に映画を見たり、たくさん会話をしたり、学校の授業などで99%の英語に囲まれて、英語力が向上しました。

目標②について さまざまなパーティーや高齢者施設での発表以外にホストファミリーにも燕の魅力を伝えることができました。ホストファミリーと一緒に「Sovereign Hill」に行き、バラットの歴史についてたくさん学ぶことができました。

3 最も思い出に残ったことを書いてください。

9日間のホームステイがとて思い出に残りました。一緒に映画を見たり、ショッピングモールに行ったり、ホストファミリーのいとこの誕生日パーティーに行ったり、トランボリをしたり、野生のカンガルーを見たり、たくさん話したりなどここでしか体験できなかったことがたくさんありました。

4 これから頑張りたいことや挑戦してみたいことを書いてください。

ホームステイ先で、外国映画を見てとておもしろく興味を持ったので、外国映画をたくさん見てこれからの英語力の向上を目指したいです。

5 海外派遣を希望する人へのアドバイスを書いてください。

「Hello」「Thank you」のこの2つの言葉はとて大切で、人に会ったり誰かに何かをしてもらったりする場面が99%なのでしっかりと覚えておく方がいいと思います。失敗に恐れず、何事にもチャレンジしてください！！

「目標と成果」

行き先	オーストラリア、シンガポール	氏名	早川 雅生
-----	----------------	----	-------

1 海外派遣事業、親善大使としての目標を決めましょう。

目標① 派遣先では、相手に少しは燕のことを知ってもらい
「私も行きたい」と思わせるおな紹介をすること。

目標② 海外派遣が終わり、相手の元を離れるときは
泣いて惜ばれる程の絆を築けていたい。

2 目標は達成できましたか？

目標①について プレゼンテーションの最中に、相手の反応を見ていたが、
うなずいてくれる人もいたし、笑ってくれる人もいたので、「私も行きたい」と思ってもらえたと思う。

目標②について ホストファミリーと別れるときに、互いに泣いて別れを惜しみ合った。
その瞬間には、「親善大使」ということを忘れてしまう程、心の中が真白だった。

3 最も思い出に残ったことを書いてください。

去りが終ったときに気が付いた「何気なく過ごしていた、ホストファミリーとの日々」。
よく「当たりまえの日の大切さは終ってから気が付く。だから1日1日を精一杯生きろ」という
言葉を聞くが、その言葉の意味を体感・実感できる。
「特別で当たりまえの日々だった。

4 これから頑張りたいことや挑戦してみたいことを書いてください。

今まで、初め会う人とのコミュニケーションがあまり取れなかったけど、
今回の体験を通じて、日本人の人だけでなく、言葉が違っても海外の人とも仲良くなったので、
自分に自信を持ち、積極的に相手とのコミュニケーションを取ってみたい。

5 海外派遣を希望する人へのアドバイスを書いてください。

海外派遣に希望を持っている人、期待を持っている人、不安を持っている人、それぞれだと思います。
自分も最初は、不安がいっぱいでした。けれど、日々重ねるにつれ、どんどん「楽しさ」が湧いてきて、
不安はなくなってました。なので1日1日を精一杯生き、何事にも楽しめれば、必ず、とても良い経験となります。

「目標と成果」

行き先	オーストラリア（シンガポール）	氏名	白倉 綾太
-----	-----------------	----	-------

1 海外派遣事業、親善大使としての目標を決めましょう。

目標①

多くの人々に世界に誇れる金属加工の技術など、燕市の良い所を伝える。

目標②

燕市を知らない人にも「燕市は良い街なんだな」と知ってもらえるように、プレゼンの読み方などを工夫したりする。

2 目標は達成できましたか？

目標①について

燕市の有名な場所などをプレゼンなどで多くの人々に伝えられた。

目標②について

ホストファミリーに実際の金属洋食器を見せたりといった工夫した説明で、「燕市は良い街だ」と印象づけられたと思う。

3 最も思い出に残ったことを書いてください。

現地の学校の生徒たちと仲良くなれたことや、ホストファミリーとバーベキューをしてカンガルーのソーセージを食べたことなど。なかなか出来ない体験ができて良かった。

4 これから頑張りたいことや挑戦してみたいことを書いてください。

英語の発音や文法、単語などをしっかりと学び、英語だけでなく、イタリア語やフランス語なども話せるようになりたい。

5 海外派遣を希望する人へのアドバイスを書いてください。

コミュニケーションでの失敗などはあまり恐れず、積極的にコミュニケーションにチャレンジして下さい。

「目標と成果」

行き先	オーストラリア（シンガポール）	氏名	清田 万智
-----	-----------------	----	-------

1 海外派遣事業、親善大使としての目標を決めましょう。

目標① ホストファミリーと、英語が完全には分からなくても、ジェスチャーや絵で工夫してコミュニケーションを図る。

目標② オーストラリアの文化を学び、オーストラリアの人たちには日本の文化を伝えて、日本（燕市）に来たいと思ってもらえるようなプレゼンをする。

2 目標は達成できましたか？

目標①について ジェスチャーはかなり使うことができた。絵はあまり使えなかったけれど、身体全体を使って物事を表現したりして、その物の英語が分からなくても伝えた時が多くてうれしかったです。なので、工夫して会話ができたと思うので、目標は達成できました。

目標②について オーストラリアの博物館のMADELに行って戦争の歴史をたくさん学びました。プレゼンは、少しはよくなってしまうところもあったけれど、スラスラ言えたり、ホストファミリーから日本に行きたいと言ってもらえることができたので、目標は達成できました。

3 最も思い出に残ったことを書いてください。

ホストファミリーとショッピングに行ったことと、メルボルンに観光に行ったことです。ショッピングは、ホストファミリーが「これらは便利とか美味しいな」と説明してくれたおかげで、良い買い物をする事ができました。メルボルン観光では、イラストがたくさんあるビルに行き、「そこは、毎日、毎日絵が変わっているんだよ」とホストマザーに言われて、とてもおどろきました。

4 これから頑張りたいことや挑戦してみたいことを書いてください。

外国の歴史を学ぶことです。オーストラリアでバラットの博物館に行って、戦争の歴史について学びました。そこで、日本とは違う歴史に興味を持ちました。そして他の地域や他の国の歴史も知りたいと思いました。

5 海外派遣を希望する人へのアドバイスを書いてください。

とても楽しいけれど、日本語が使えないので、思っていることが多分伝わらないので、相手の人の家でするので、頼み事を自分の口から言うのは、とても勇気がいります。でもそれを伝えられなかったら、絶対日本で後悔はするし、頼んでおいて、ダメだったら、お礼言わないと考えると、海外派遣がもっと楽しく、もっと有意義なものになると思います。

「目標と成果」

行き先	オーストラリア（シンガポール）	氏名	関川大翔
-----	-----------------	----	------

1 海外派遣事業、親善大使としての目標を決めましょう。

目標① 積極的にホストファミリーや現地校の生徒に英語で話しかけ、自分の英語能力を向上させることです。言われたこともしっかり正確にとらえられるようにしたいです。

目標② 洋食器やラーメンなどについてホストファミリーや現地校の生徒に伝えていくことです。またオーストラリアの文化や有名な物を教えてもらって文化の交流をしていきたいです。

2 目標は達成できましたか？

目標①について 達成できたと思います。自分から「Hello」や「Hi」などとおいさつをはじめとしてどんどん会話をしていき向上につながっていたと思います。

目標②について 達成できたと思います。ホストファミリーには家やドライブ中に、現地校の生徒には休み時間や学校にあるJapanese roomなどで伝えられたと思います。

3 最も思い出に残ったことを書いてください。

ホストファミリーといっしょに夕食やデザート調理をしたことです。アップルパイやケーキなどの食事をその日にあったことやオーストラリアについての会話をしたりしながら料理をしたのでホストファミリーとの仲が深まりお別れのときにお互い悲しめたと思います。

4 これから頑張りたいことや挑戦してみたいことを書いてください。

来年のスピーチコンテストでの報告会のときに自分の経馬賃をしっかりと伝えることと、英検準2級にチャレンジしていきたいです。

5 海外派遣を希望する人へのアドバイスを書いてください。

文法が分からなくなっても伝えたいことを単語とジェスチャーをうまく使って伝えてみてください。初めは不安でもだんだん笑顔の絶えない日が来ているですよ！がんばってください！！

「目標と成果」

行き先	オーストラリア、シンガポール	氏名	佐藤 友里夏
-----	----------------	----	--------

1 海外派遣事業、親善大使としての目標を決めましょう。

- 目標① オーストラリアの文化を学びたいです。
 理由は、私は日本の文化しか知らないのて、他の国の文化を知りたいと思ったからです。
- 目標② 燕市の魅力をたくさん伝えたいです。オーストラリアの人たちは燕市のことを知らない人が多たいと思うからです。

2 目標は達成できましたか？

- 目標①について オーストラリアでは、アボリジニ体験などを通して文化を学ぶことができました。
- 目標②について おみやげやフーズセッション、ワイズ、かるたなどからホストファミリーや学校の生徒のみなさんに、燕市の魅力を伝えられたと思います。

3 最も思い出に残ったことを書いてください。

最も思い出に残ったことは、ホストファミリーと過ごした時間です。伝わらないことや、理解できないことも多くありましたが、エスチャーや何度もくりかえして言うことで、話すことができました。とても楽しい時間を過ごすことができてうれしかったです。

4 これから頑張りたいことや挑戦してみたいことを書いてください。

私の英語は、まだまだだと言うことが分かったので、もっと英語の勉強をがんばりたいです。とくに単語力をもっと増したいです。

5 海外派遣を希望する人へのアドバイスを書いてください。

分からないこと、伝わらないことも多たいです。ですが、楽しいこと、たくさん知らないことを知る機会となります。がんばってください。

「目標と成果」

行き先	オーストラリア（シンガポール）	氏名	浅野イカリ理咲子
-----	-----------------	----	----------

1 海外派遣事業、親善大使としての目標を決めましょう。

目標① 現地のホストファミリーとたくさん交流したり、自分からお手伝いをしたりすることによって、日本とは異なる暮らしを学び、英語力の向上も目指します。

目標② 燕市の良さを全力でアピールして、私たちの話を聞いた人に『行ってみたい！』と思ってもらえるような活動をする予定です。

2 目標は達成できましたか？

目標①について ホストマザーと一緒に夕食を作るなど、お手伝いを自らすることもでき、その日あったことや日本の文化などについてたくさん会話をすることができたので達成できました。

目標②について ホストファミリーや現地校の生徒に日本に行きたい、と言ってもらえたので達成できたと思います。

3 最も思い出に残ったことを書いてください。

週末、ソングリンヒルやランチに連れて行ってもらったり、ファミリーの親戚の子どもたちの誕生日をピザレストランでお祝いした事など、ホストファミリーと過ごした事。セント・アリポアスの生徒とあそんだり、オーストラリアについて学習したことなど、全てが私にとって素晴らしい思い出になりました。本当に、良い経験をさせていたいただきました。

4 これから頑張りたいことや挑戦してみたいことを書いてください。

これを機に、もっと英語や海外について学び、いずかはヨーロッパやアメリカ、そしてオーストラリア等に留学してみたいです。

5 海外派遣を希望する人へのアドバイスを書いてください。

はじめはものすごく不安で、大丈夫かな？やていけるかな？と思っていましたが、一歩ふみだしてみたら、世界が変わりました。まずは挑戦してみる事が大切ですよ。がんばってください！

「目標と成果」

行き先	オーストラリア、シンガポール	氏名	田中 萌絵
-----	----------------	----	-------

1 海外派遣事業、親善大使としての目標を決めましょう。

目標① オーストラリア、シンガポールで活動することによって、自身の英語力を試し、さらなる向上を目指す。

目標② 燕市の魅力を精一杯伝え、多くの人に燕市に興味を持ってもらうと共に、自分もオーストラリア、シンガポールについて学ぶ。

2 目標は達成できましたか？

目標①について たくさんの会話の中で、聞き取れなかったことは多くあったが、少しでも聞き取ろうとしたり、伝えようとしたりすることで、初めての単語、会話を覚えることができた。

目標②について 燕市の食、産業に加え、日本の文化をプレゼンやホストファミリーとの会話の中で、たくさん伝えられた。また、実際にたくさん話すことで、日本では知らなかったようなオーストラリア、シンガポールの文化を学ぶことができた。

3 最も思い出に残ったことを書いてください。

ホストファミリーとたくさん話し、様々な軽食をさせてもらったこと。1.週末は、バララットで金かとれていたことほど、歴史がわかる丘に連れて行ってもらっただけでなく、本当の家族のように、ホストブラザーたち、おじいさん、おばあさん、家に行き、野生のカキルルーを見せてもらったり、親善大使となり、ホームステイをしはじめて、できないような体験がたくさんできた。

4 これから頑張りたいことや挑戦してみたいことを書いてください。

学校で英語の学習をするのではなく、実際に現地の人と話して、自分の英語力がまだ不足していることが分かったので、これからは英語の中でも、聞くこと、話すことに重点を置いて努力したい。

5 海外派遣を希望する人へのアドバイスを書いてください。

最初は緊張してあまり話せなかったけれど、うまく話すだけでなく、伝えることが大切だから、文が作れなくても、分かる単語で少しでも伝えるように努力することが一番重要だと思います。

「目標と成果」

行き先	オーストラリア（シンガポール）	氏名	松田 一木 樹
-----	-----------------	----	---------

1 海外派遣事業、親善大使としての目標を決めましょう。

目標① 自分から話しかけたり、進んで文化体験をする
などして、何事にも積極的にチャレンジをする。

目標② 金属工業や背油ラーメンなど、燕市
の良いところをしっかりとPRしてくる。

2 目標は達成できましたか？

目標①について 最初はあまり自分から話しかけることが
できなかったが、後半には自分から話しかけら
れるようになった。

目標②について フレゼン等の活動を通して燕市の良い
ところをしっかりとPRすることができた。

3 最も思い出に残ったことを書いてください。

ホストファミリーやオーストラリアの
子どもたちと、いろいろな活動を通し
て仲良くなったこと。

4 これから頑張りたいことや挑戦してみたいことを書いてください。

英語力を上げ、単語だけの会話ではなく、正しい文を
使って会話をこなせるようになりたい。

5 海外派遣を希望する人へのアドバイスを書いてください。

日常会話で使う言い回しや、スラングをしっかりと
覚えてから行くと良い。

「目標と成果」

行き先	オーストラリア、シンガポール	氏名	向井 萌笑
-----	----------------	----	-------

1 海外派遣事業、親善大使としての目標を決めましょう。

目標① 燕市の伝統行事、工芸品、食べ物などの素晴らしさをオーストラリアの人々にたくさん伝える。

目標② ホームステイなど現地での会話を通して、オーストラリアについてたくさん知るとともに、英語力を向上させる。

2 目標は達成できましたか？

目標①について プレゼンテーションやフイズ、カルタを通して、燕市に関連することをたくさん伝えられたので、達成できました。

目標②について ホストファミリーに積極的に話をしたことで食や風土などを知ることができて、また、話もだんだん分かるようになったので、達成できました。

3 最も思い出に残ったことを書いてください。

ホストファミリーとドライブでビーチに行ったことです。ドライブだったので車に乗っている間はいろいろと話して、ビーチでは子供達と一緒に遊びました。新潟とは違う海の感じでとても楽しめました。英語もたくさん話せて楽しい時間だったと思います。

4 これから頑張りたいことや挑戦してみたいことを書いてください。

いろいろな国に行って英語をもっと話したいです。今回の経験により外国の魅力を知ったので自分の視野を広げるためにも挑戦してみたいです。

5 海外派遣を希望する人へのアドバイスを書いてください。

恐れなくて英語を話してほしいです。単語で話すのではなく、英文で話してみると伝わった時にとても嬉しくなります。

「目標と成果」

行き先	オーストラリア（シンガポール）	氏名	田邊 史希
-----	-----------------	----	-------

1 海外派遣事業、親善大使としての目標を決めましょう。

- 目標① ホームステイ先で燕市の文化など
燕市の魅力を伝え、感心をもってもらえるようにする。
- 目標② ホームステイ先などでたくさん会話をし、
オーストラリアの文化について知る。

2 目標は達成できましたか？

- 目標①について 自分の知っている単語・ジェスチャー・写真を使って
燕市の魅力を伝え、日本に行きたいと思ってもらうことができたので
目標①は達成できたと思います。
- 目標②について サ・ボリンビルでオーストラリアの文化をホストファミリー
から教えてもらい、たくさん会話をするのができたので目標②も
達成できたと思います。

3 最も思い出に残ったことを書いてください。

- 3つの奥なるビーチに行きました。
- 全て同じで日本と同じだろうと思っていただけ、日本の海より
きれいで波が高かったです。寒い中でもサーフィンを楽しんで
いる人がたくさんいてびっくりしました。

4 これから頑張りたいことや挑戦してみたいことを書いてください。

- 私は英検3級まで持っているのですがこの経験を生かして、次は、
準2級に挑戦したいと思います。

5 海外派遣を希望する人へのアドバイスを書いてください。

- 自分にせいげんをつけずにいろんなことに挑戦する。
- 人前でスピーチをするのは緊張するけれど勇気を出して
自分の意見を主張してほしいです。

ホストファミリーや現地校生徒と一緒に生活する中で、当初思っていたよりもずっと早く打ち解け、英語を通じたコミュニケーションができるようになりました。



燕中等教育学校3年 松田 一樹



現地では、皆、目が合うと微笑んでくれて、とてもフレンドリーでした。気温が低く、使い捨てカイロを使うと、ホストファミリーが驚いていたことも印象的でした。

分水中学校2年 浅野 レイチェル 理咲子



ホストファミリーとのたくさんの会話が忘れられません。フレンドリーに話しかけてくれたので、ジェスチャーなどを交えて、とても楽しく過ごすことができました。

吉田中学校3年 佐藤 友里夏



ホストファミリーと過ごした時間は忘れられません。初めは不安でしたが、週末までにある程度会話ができるようになり、休日の旅行は楽しく、充実したものとなりました。

小中川小学校6年 三浦 陸



ホストファミリーと過ごした日々が一番の思い出です。積極的に会話して、自分の英語力を知ることができ、今回の経験が、私自身の力になったと実感しています。

燕中等教育学校3年 向井 萌実



燕北中学校2年 草川 寿生

「日々の大切さは終わってから気づく。だから大切に」というような言葉を耳にしますが、ホストファミリーとの別れのときに、9日間を振り返り、実感させられました。



休日にはホストファミリーと、パララット市内観光、フットボール観戦に出かけました。カンガルーのソーセージも食べ、思っていたよりおいしくて、充実した日々でした。

吉田中学校2年 白倉 稔太

一番印象に残っているのはホームステイです。最初はとても緊張していましたが、本当の家族のように接してくれて、すぐに打ち解け、英語を楽しく学ぶことができました。



新潟第一中学校3年 由通 史歩



ホストファミリーとの会話や現地校生徒との授業を通して、その温かさにたくさん触れることができました。この貴重な経験を生かし、さらに英語力の向上に努めます。

燕中等教育学校3年 田中 萌絵

シンガポール

マーライオンやマリーナベイサンズなどで有名なシンガポールは、東京23区ほどの面積をもつ東南アジアの島国。観光の街であり、世界の物流の中心地でもある。様々な商機を求め、多くの国の人々が暮らしている。



バラット(オーストラリア)

アボリジニの言葉で「休憩所」に由来すると言われるバラット。1850年代に金が発見されたことから入植が殺到し、1854年には鉱山夫たちによる「クーレカ岩の反乱」があった。北西部にある人造湖レイクウェンドリーでは、ブラックスワンを見ることができる。



マーライオン前で記念撮影
(シンガポール)

オーストラリア(バラット)とシンガポールへ行ってきました！

ジャック・アンド・ベティ
—Jack & Betty プロジェクト海外派遣事業2017—

今年度も、スピーチコンテストなどの選考を通過し、多くの研修会を経た12人の親善大使が、燕市の産業・教育・観光などに関する魅力を海外へ発信するという使命を果たして帰国しました。今年度は8月15日から26日までの12日間、ホームステイと現地校での授業を経験してきました。

●問合せ 学校教育課 指導係 ☎ 0256・77・8191



現地学校の生徒と記念撮影
(バラット)



バラット市街をバックに記念撮影

高齢者施設への訪問では、入所者の方に折り紙の折り方などの日本の文化を伝えることが大変でした。また、紙風船に興味津々の方が見られたことにも驚きました。



吉田中学校2年

満田 方留



ホストファミリーとの9日間は、忘れることができない思い出です。映画を観に連れて行ってくれたり、家ではたくさん話しかけてくれたりして、英語力も向上しました。

燕中学校3年

吉川 結南

初めてホストファミリーと対面したときは不安でしたが、ゆっくり簡単な英語で話してくれたので、内容を理解することができ、とても楽しく過ごすことができました。



吉田中学校2年

蘭川 大翔

海外派遣事業研修参加者

燕市立燕北中学校 教諭 内藤治美

「Seeing is believing. (百聞は一見にしかず)」
英語教員として教え始めた頃、教科書に出てくる内容について、詳しい情報を生徒達に伝えるとき、自分の目で見たり経験したりしたことのないことを知識だけで教えていた自分に疑問を感じるようになりました。そこで、広島や長崎、沖縄に行って原爆や戦争について学び、福島へ行き震災後の様子を実際に体験することにより体験から伝えるようになりました。



教員になって4年目、初めて一人でカナダとアメリカへ行ったとき、当時のALTのアドバイスにより、「一人で行くこと」「自分で国際電話をかけて英語ですべての手続きすること」が一番の勉強になると言われて実行しました。それまではどちらかというとおとなしい性格だった私にとってはとても勇気のいる挑戦でしたが、この経験が私の性格や考え方を大きく変えるきっかけとなりました。その後、数カ国を同様に旅行し、異文化に触れ、多くの人々と出会い、見るもの経験することに驚き戸惑い、刺激的なことばかりでした。そして、日本がいかに平和で安全な恵まれた国であるかということにも気づかされました。機会があるたびに授業ではその経験を生徒達に話しています。



今回の燕市の海外研修の渡航先であったオーストラリアとシンガポールは、私にとって初めて訪れる場所でした。親善大使にはその大切な役割があったので、事前研修などで私自身も燕市について深く学ぶことができましたし、燕市に訪れてほしいという気持ちから、現地の方々に新潟県や燕市のことを知っていただきたいと思いました。オーストラリアでのホームステイでは、実際の生活に生で触れることができました。家族の一員として自分の考えを主張し、互いの考えの違いを受け入れ合いながら寄り添うこと

はとても大切だと感じました。また、学校教育について学ぶことも多く、自分の授業で使える教材を共有させていただきました。オーストラリアもシンガポールも多国籍の人々が生活しており、互いが認め合い、とても親切で気さくに話しかけてくれる人ばかりでした。電車の中も会話で溢れていました。言葉でのコミュニケーションをととても大切にされていて、自分の価値観や生き方などについても考えられるとてもよい機会にでもなりました。自身の財産となった今回の経験を活かして、これからも燕市の教育に貢献していきます。

このような機会を与えてくださったお日さまプロジェクト関係者の方々をはじめ、支援してくださった皆様に心より深く感謝申し上げます。

引率者報告

燕市教育委員会学校教育課 指導主事 杵淵 貢

今年度の海外派遣事業の訪問先は、オーストラリアのメルボルン、その近郊のバララット、そしてシンガポールでした。今回も親善大使のほとんどにとって初めての海外旅行となりました。今回は 12 人中、男子が 5 人だったので、比較的男女のバランスのよい親善大使団だったと思います。パスポートを紛失したり、忘れたりする親善大使もいませんでしたし、初めてにしては、空港での出国手続き、長いフライト、入国審査など、どれも落ち着いた態度で行動できたと思います。大きな事件や事故、けがや病気もなく無事に行ってくることができて、燕三条駅に到着したときにはほっとしました。小学 6 年生から中学 3 年生まで様々な個性を持ち合わせたメンバーでしたが、上級生を中心に一致団結して、その使命を果たすことを常に頭に置いて行動できたからだと感じております。

今回、シンガポールの新潟県人会との交流会は、コンピュータを用いた新潟市とのライブ中継に参加させていただきました。日本の伝統的な歌「故郷」に英語の注釈を加えて歌い、遠く離れた新潟市の県人会関係者の皆様が同時に合唱してくださった感動的な場面も体験させていただきました。また、今回の海外派遣事業でも、やはり「コミュニケーションの素地を身に付けること」や「コミュニケーションに対する関心・意欲、態度」が、海外で生活したり、他と協力して何かに取り組んだりすることには、とても大切であることを実感しました。また、コミュニケーションを図ろうとする意欲や態度においては、小学生、中学生という学年差はあまりないように感じました。今回、この時期に「海外での生活」を体験することが、大きな意味があるということも、改めて実感しました。

子どもたちは適応力が高く、海外の生活にもすぐに慣れます。しかし、食生活など、10 日間くらいでは適応できないこともあります。この適応しきれないような困難をともなった面も、子どもたちを成長させる材料にもなり得ます。「自分で食事の用意や後片付けをしなければならなかったので、親のありがたさがわかった」「日本ではいつも親が身近にいて助けられているが、海外では自分自身の行動に責任をもたないと生き残れないと感じた」「今までの自分を見つめ直すことができ、自身が変わることができた」など、いずれも親元を離れたときには感じることもかもしれませんが、このような多感な時期に、異国で生活することは、そのインパクトが大きいと感じました。

何よりも、当初は不安を抱えていた親善大使が、この海外派遣を心から楽しみ、最後にはオーストラリアの魅力や、ホストファミリーへの感謝を実感して、この体験が彼らの人生の宝物になったことがとてもうれしく、一緒に居られた時間が、とても幸せに感じられたこと感謝しております。

現地でのご関係の皆様を含め、このような有り難い貴重な機会を与えてくださいました関係者の皆様方に、心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

